



**東北大学における安全保障輸出管理
2019年度活動報告書**

2020年3月

国立大学法人東北大学

はじめに

東北大学では、2010年3月に安全保障輸出管理規程を制定して安全保障輸出管理を本学のコンプライアンス活動に組み込み、輸出管理体制を構築して以来、学内外の関係者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、約10年にわたり実効的な輸出管理の実践に努めてまいりました。

本活動報告書は、2019年度における本学の安全保障輸出管理に係る活動状況を取りまとめたものです。

安全保障輸出管理は、軍事転用可能な高度な貨物や技術が、大量破壊兵器を開発している国などに渡らないよう、これらの国への輸出について、先進国を中心とした国々で協調して防止するための取組です。

大学においては、研究成果や研究資機材が大量破壊兵器の開発等に利用されないように「貨物の輸出」や「技術の提供」について管理することで、自由な教育・研究環境を保障し、グローバルな研究活動を支援するものになります。

本学は、2018年に東北大学ビジョン2030を策定し、「最先端の創造、大変革への挑戦」を掲げ、世界で活躍する人材の育成や世界トップレベルの研究の推進等、様々な取組を展開しております。一方で、教育プログラムの創出や、国際研究拠点形成の推進は、意図せざる技術流出を引き起こしかねず、輸出管理を含め関係法令の順守やリスクマネジメントについても高いレベルでの管理が必要となります。

現在、大学の教育研究活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、厳格な感染症拡大防止対策を講じた上で実施しなければならない状況にあります。

このような状況下において、本学ではオンライン授業や業務全般のオンライン化等、サイバー空間を活用した諸活動を拡大しております。2020年1月から安全保障輸出管理についてもWEB申請システムを稼働し、オンライン化を開始したところですが、輸出管理の方法に関しても、ニューノーマルを先導する大学としての教育研究活動を保障するため、一層の改善を行うなど柔軟な対応が必要であり、また実践展開していく必要があるものと考えます。

末筆ではありますが、本報告書が本学における安全保障輸出管理の理解の一助となると同時に、我が国の大学等における安全保障輸出管理の制度の普及や課題共有と取組の追求に若干でも寄与できれば幸いです。

国立大学法人東北大学安全保障輸出管理統括責任者
理事・副学長（総務・財務・国際展開担当） 植木 俊哉

東北大学における安全保障輸出管理

2019年度活動報告書

目 次

第1章 活動状況	1
第2章 判定手続等の取扱実績	6
第3章 調査	12
第4章 教育・普及啓発活動	13
第5章 監査	15
第6章 学外との連携活動等	18

資料

1. 国立大学法人東北大学安全保障輸出管理規程	21
2. 東北大学安全保障輸出管理体制図	30
(参考資料1) 本部責任者等名簿(2020.3.31現在)	31
(参考資料2) 委員会名簿(2020.3.31現在)	32
(参考資料3) 委員会アドバイザー名簿(2020.3.31現在)	34
(参考資料4) 輸出管理アドバイザー名簿(2020.3.31現在)	35
(参考資料5) 輸出管理担当者名簿(2020.3.31現在)	36
3. 基本フロー図	38
4. 判定手続のフロー図	39
5. 終了前確認チェックフロー図	40
6. 「安全保障輸出管理に関する教員全学講習会」2019年度教員全学講習会資料	41

第1章 活動状況

本学では、2010年3月に安全保障輸出管理体制が発足して以降、国際的な平和及び安全の維持を目的とした外国為替及び外国貿易法（以下「外為法」）を遵守するとともに、大学の国際化や研究環境の変化等、本学の実情に即した輸出管理の制度構築および運用について、様々な取り組みを行ってきた。

以下、Ⅰにおいて2019年度に行った改善・充実のための種々の取組みのうち主なものを紹介し、また、Ⅱにおいては委員会の実施状況、本学の輸出管理の状況を報告する。

Ⅰ. 改善・充実のための主な取組み

2019年度に行った改善・充実のための主な取組みは以下のとおりである。

1. けん制体制（教員に対する事務サポート）の充実・強化

本学では、安全保障輸出管理（以下「輸出管理」）におけるけん制体制（教員に対する事務サポート）の充実・強化のため、事務関係部署との連携等に関する様々な活動を行っている。

【取組み】

- ・留学生等の輸出管理手続きについて、国際交流サポート室と連携し、在留資格認定証明書申請手続きの状況と照合して輸出管理の実施状況を確認することにより、手続き遺漏防止に努めた。
- ・産学連携課から海外企業との共同研究実施状況を共有してもらうほか、部局より共同研究契約の相談を受けた場合は、互いに情報共有を図り、外為法のみならず米国規制等への抵触防止を踏まえた対応を行った。

2. 安全保障輸出管理委員会の運営改善

本学安全保障輸出管理委員会（以下「委員会」）は、開催形式と書面形式による委員会審議、講習会等の普及・啓発活動及び監査を行っており（Ⅱ. 委員会の活動状況を参照）、2019年度の運営改善に関する取組みは以下のとおりである。

【取組み】

- ・本学では、輸出管理に関する教育・普及啓発活動として講習会を開催（詳細については後述の第4章参照）している。前年度まで安全保障輸出管理アドバイザー研修会については、安全保障輸出管理委員会委員長が講師として実施していたが、これまでとは違う視点で直接経済産業省の担当者から講習を受けることが今後の取り組みに有用であると考え、経済産業省貿易経済協力局貿易管理部安全保障貿易管理課長を講師として招へいし、最新の国際安保情勢及びその動向について講演いただいた。

3. その他

上記のほか実施した取り組みは以下のとおり。

- ・本学の輸出管理手続き時に用いる様式（輸出管理シート、終了前確認シート）について、手続きの省力化及び下記システム化を見据え、申請者の押印を廃止した。
- ・一昨年より検討を行っていた輸出管理シートの作成や確認作業等に関する業務のシステム化について、情報推進課の協力のもとシステム構築を行い、下記のスケジュールで運用を開始した。

2019年 7月～12月	一部部局に対してプレ運用（動作確認）
10月～12月	プレ運用と並行してシステム改修
11月	輸出管理対象組織及び担当者の権限等確認作業の実施
12月	申請者及び担当者マニュアルを作成
	輸出管理対象部局に対し申請システムを開放
2020年 1月～	本運用開始

※参考：申請システム等イメージ

デスクトップ 局事務担当者画面へ 管理者画面へ

輸出管理シート申請システム 入力選択

新規申請を行う場合は、申請種類を選択し、新規申請ボタンをクリックしてください。 [安全保障輸出管理ホームページはこちら \(http://www.bureau.tohoku.ac.jp/export/index.html\)](http://www.bureau.tohoku.ac.jp/export/index.html)

貨物輸出
 技術提供
 受入
 貨物輸出・技術提供
 受入・技術提供

いずれの取引も手続き終了後に承認となりますので、余裕をもってご申請ください。

絞り込み条件

状態	選択してください▼	申請番号	
申請種類	選択してください▼	所属部局	
記入年	選択してください▼	申請者	

状態	申請番号	種類	申請日	承認日	申請者氏
確認	20070309095320	受入	2020/07/03		
決裁済	200423165201820	技術	2020/04/23	2020/06/10	
差異し	200323120026430	受入	2020/03/23		

シート申請システムの申請方法

共通 (同一貨物を除く) >

シート申請システム 入力選択 画面にて、上野黄色枠内の申請種別から申請種別を選択し、「新規申請」を選択します。

シート申請システム 入力 (同一申請種別) 画面で各種情報を入力します。

申請種別の「氏名」を入力するには、申請者の職員番号又は東北大 ID が必要です。申請者として入力したい場合は東北大 ID をご登録の方は、申請者が可能です。

申請種別は申請種別が自動で入力されます。

シート申請システムは、申請者 (申請にシステムに入力した者)、申請者、申請者 (申請にシステム上で情報を共有できます。複数人に情報を共有し、ご共有ください。

2019年12月
安全保障輸出管理室

II. 委員会の活動状況

2019年度の安全保障輸出管理委員会の活動は以下のとおりである。

【委員会等】

- ・概ね1回／月開催（開催形式と書面形式を併用）、本委員会前に委員長、副委員長及び輸出管理マネージャーによる事前審査を実施。
- ・委員会での主な審議は、規程細則等の改正関係、懸念先からの受入れ等。

【普及・啓発活動】

- ・教員向け講習会及び事務担当者向け説明会を2回／年開催。そのほか、アドバイザー研修会を1回／年実施（詳細については第4章を参照）。

【監査・評価活動】

- ・9月～10月にかけて一次監査（書面監査）及び二次監査（実地監査）を実施（詳細については第5章を参照）。

● 2019年度安全保障輸出管理委員会活動状況

年月	委員会等	普及・啓発活動	監査・評価活動
2019年 4月	4/8 事前審査 4/16 第1回委員会（開催）	4/4 教員全学講習会（工学部）	
5月	5/15 事前審査 第2回委員会（書面）	5/21, 28 教員全学講習会 （星陵、北青葉山、片平）	
6月	6/5 事前審査 第3回委員会（書面）		
7月	7/3 事前審査 第4回委員会（書面）	7/26 実務担当者向け説明会 7/29 アドバイザー研修	
8月	休会		
9月	8/28 事前審査 第5回委員会（書面）		定期監査
10月	10/9 事前審査 第6回委員会（書面）	10/3 教員全学講習会（工学部）	定期監査
11月	11/6 事前審査 第7回委員会（書面）	11/8, 19, 29 教員全学講習会 （片平、北青葉山、星陵） 11/27 実務担当者向け説明会	
12月	休会		
2020年 1月	1/8 事前審査 第8回委員会（書面）		
2月	2/13 事前審査 第9回委員会（書面）		
3月	3/11 事前審査 第10回委員会（書面）	3/6 環境科学研究科安全保障輸 出管理説明会（新型コロナ感染 症の影響により中止）	

第2章 判定手続等の取扱実績

この章では、本学の管理体制のうち、判定手続等の取扱実績を件数ベースで説明する。

なお、本学では、取引の懸念性の度合いに応じて段階的に手続書類（輸出管理シート）に記入する項目を増やし、判定手続きについても同様に取引の懸念性の度合いに応じた審査体制を構築し慎重な審査を実施している（濃淡管理の実施）。

I. 判定手続等の構成

1. 入口管理

①判定手続（詳細は資料4参照）

懸念性	低い	比較的高い	高い
審査	事前確認	該非判定及び取引審査	委員会審査
承認及び判定	部局限りで承認	部局判定に加え輸出管理室において内容確認	委員会にて審議、最終的には統括責任者が承認
相手先	懸念先を除く国	懸念先を除く国	懸念先出身者及び在籍者（過去に在籍した者を含む）
判定基準	・公知の技術 ・例外規定に該当 ・非該当証明書取得済	・例外規定に該当しない ・非該当証明書を取得していない貨物	・輸出貨物及び提供技術の内容如何に関わらず実施

・委員会審査について

懸念性・リスク	一次審査	二次審査	最終審査
高 High-risk: 転用可能性が相対的に高い重大なケース	部局管理責任者（部局長）	委員長・副委員長・マネージャー（事前審査を実施）	安全保障輸出管理委員会、統括責任者（理事・副学長）



2. 中間管理

①再判定手続

上記1. の判定手続を終えて取引を開始するまでの間、又は取引を開始した後、以下に該当する場合には改めて上記1. の判定手続を行う。

- 1) 提供技術・輸出貨物の内容に追加又は変更がある場合。
- 2) 受け入れた留学生等の所属大学・研究機関又は学位取得大学が新たに外国ユーザーリストに掲載された場合、又は国籍を有する国が新たに懸念国若しくは国連武器禁輸国・地域に指定された場合。

3. 出口管理

①終了前確認

上記1又は2の手続を経て受け入れた留学生・外国人研究者について、受入期間（判定手続における審査の対象期間）終了後の進路先が確定した場合には、受入者である教員等は、原則として終了予定日の遅くとも1月前までに、終了前確認チェックフロー図（資料5参照）に従い終了前確認を行う。

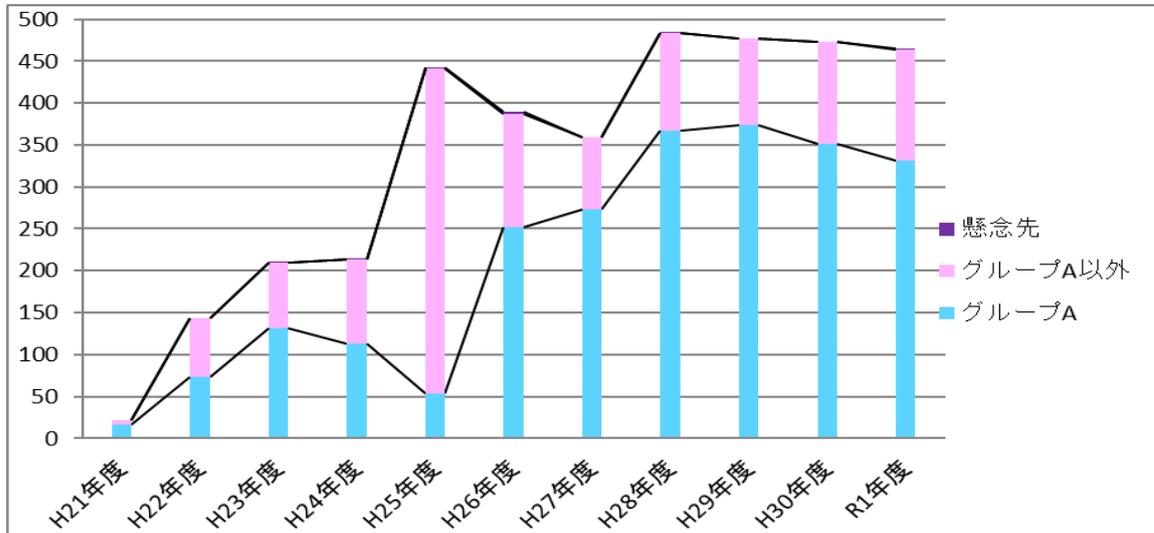
II. 取扱実績

1. 判定手続の取扱実績

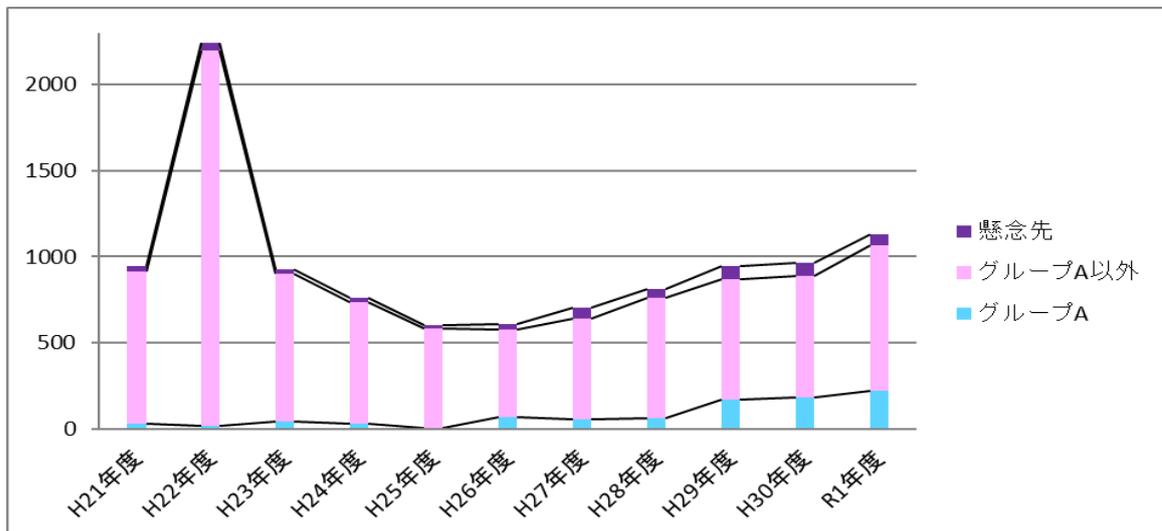
① 判定手続き件数推移

種別	提供先所在国	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
貨物	グループA	16	73	132	113	53	252	273	367	374	351	331
	上記以外	6	71	77	100	388	135	86	116	103	122	134
	懸念先	0	0	1	1	1	2	0	1	0	0	1
	計	22	144	210	214	442	389	359	484	477	473	466
役務	グループA	31	20	41	31	7	68	55	66	171	183	221
	上記以外	881	2175	858	708	579	511	588	693	700	704	843
	懸念先	35	49	30	20	19	28	64	51	74	76	67
	計	947	2244	929	759	605	607	707	810	945	963	1131
合計		969	2388	1139	973	1047	996	1066	1294	1422	1436	1597

・貨物



・役務



② 2019年度取扱件数及び判定結果

種別	提供先所在国	件数	リスト規制該当		リスト規制非該当
			経産省への許可申請案件	一般包括許可適用案件	
貨物	グループA	331	2	10	319
	上記以外	134	3	—	131
	懸念先	1	0	—	1
	計	466	5	10	451
役務 (受入、技術提供)	グループA	221	0	0	221
	上記以外	843	1	—	842
	懸念先	67	0	—	67
	計	1131	1	0	1130
合計		1597	6	10	1581

③ 2019年度月別取扱件数

● 懸念先以外を相手先とする取引

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事前確認限りで取引を承認した案件	81	89	121	90	54	136	91	73	101	94	69	61	1060
貨物の輸出(非該当証明書)	1	0	0	5	3	5	4	7	3	1	1	4	34
技術の提供・受入れ(例外規定)	80	89	121	85	51	131	87	66	98	93	68	57	1026

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
該非判定・取引審査により取引を承認した案件	16	23	26	25	22	34	23	35	22	20	19	19	284
貨物の輸出	14	23	24	23	15	28	22	32	19	15	17	14	246
(内訳) 輸出許可申請必要							1	1		2			4
(内訳) 一般包括許可適用			2										2
(内訳) 輸出許可申請不要	14	23	22	23	15	28	21	31	19	13	17	14	240
技術の提供・受入れ	2	0	2	2	7	6	1	3	3	5	2	5	38
(内訳) 役務取引許可申請必要						1							1
(内訳) 一般包括許可適用													0
(内訳) 役務取引許可申請不要	2		2	2	7	5	1	3	3	5	2	5	37

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
同一貨物の再輸出として取引を承認した案件	13	22	23	19	12	16	20	17	10	15	11	7	185
(内訳) 輸出許可申請必要				1									1
(内訳) 一般包括許可適用	1	2				2	1	1		1			8
(内訳) 輸出許可取得不要	12	20	23	18	12	14	19	16	10	14	11	7	176

● 懸念先を相手先とする取引

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
委員会開催回	1回	2回	3回	4回	-	5回	6回	7回	-	8回	9回	10回	
統括責任者の最終確認を経て承認した案件	2	5	3	5	0	4	5	3	0	7	4	2	40
貨物の輸出													0
技術の提供・受入れ(研究テーマの変更を含む)	2	5	3	5	0	4	5	3	0	7	4	2	40
(内訳) 外国ユーザーリスト掲載機関	2	4	1	2		2	1	3		4		2	21
(内訳) 軍事・国防関連機関							1						1
(内訳) 懸念国			2	2		2	2			2	4		14
(内訳) 国連武器禁輸国・地域		1		1			1			1			4
全学管理責任者裁定により承認した案件	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	1	6
貨物の輸出												1	1
技術の提供・受入れ	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	5
(内訳) 外国ユーザーリスト掲載機関						3						1	4
(内訳) 軍事・国防関連機関								1					1
(内訳) 懸念国						1							1
(内訳) 国連武器禁輸国・地域													0
事前確認により取引を承認した案件	1	0	16	3	1	0	0	0	0	0	1	0	22
貨物の輸出(非該当証明書)													0
懸念先からの訪問者等の受入れ(誓約書提出)	1	0	16	3	1	0	0	0	0	0	1	0	22
(内訳) 外国ユーザーリスト掲載機関			16	3									19
(内訳) 軍事・国防関連機関													0
(内訳) 懸念国	1				1						1		3
(内訳) 国連武器禁輸国・地域													0
合計	3	5	19	8	1	8	5	4	0	7	5	3	68

2. 終了前確認の取扱実績

① 取扱件数推移

懸念先以外として受入れ	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	合計
進路先が懸念先	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
提供技術の追加・変更有	0	1	4	0	0	0	0	1	0	6
帰国時の貨物持ち帰り	0	4	1	0	0	3	1	3	3	15
合計	0	5	5	0	0	3	1	4	3	21

懸念先として受入れ	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	合計
提供技術の追加・変更有	2	0	1	2	2	3	3	2	4	19
帰国時の貨物持ち帰り	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
受入期間の終了・延長等 (提供技術の追加・変更無)	29	17	24	36	45	32	26	23	34	266
合計	32	18	25	39	47	35	29	25	38	288

② 2019年度月別取扱件数

●懸念先以外として受入れ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
進路先が懸念先	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
提供技術の追加・変更有	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帰国時の貨物持ち帰り	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3
届出があったが上記いずれにも 該当しない届出	1	0	0	1	1	0	7	0	0	0	3	1	14
計	1	0	0	2	1	0	7	1	0	0	3	2	17

●懸念先として受入れ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
提供技術の追加・変更有	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4
帰国時の貨物持ち帰り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受入期間の終了・延長等 (提供技術の追加・変更無)	1	0	0	1	1	10	0	1	0	1	1	18	34
計	2	0	0	2	1	10	0	1	0	1	1	20	38

第3章 調査

本学では、輸出管理を適正かつ効果的に実施するため、所定の調査票に基づき、リスト規制技術等の保有状況等について調査を行っている。それは、手続きの遺漏による外為法違反というリスクをできるだけ低減させるため、また、取引の主体である教員等に輸出管理の意識の涵養を図ることを目的として実施しているものである。

この調査の概要については、以下のとおりである。

I. 実施状況

1. 実施時期

2019年6月～7月

2. 調査対象部局

すべての輸出管理対象部局（51部局）

3. 調査対象者

教員、技術提供を職務とする技術職員その他の職員。ただし、以下については調査の対象外とした。

- ・過去の調査において、文系（非実験系）として申告した者。
- ・過去の調査において、当該部局から研究分野を「理系」「文系（実験系）」として申告している者で、貨物及び技術の該非確認欄の記入及び活用予定がない者。

4. 調査単位

研究室、技術部等。ただし、文系部局等において教員ごとに独立した教育研究活動が行われている場合については、各教員。

5. 調査内容

リスト規制貨物・技術の保有状況（外国に輸出する予定のある貨物又は外国若しくは留学生・外国人研究者に提供する予定のある技術に限る。）

6. 調査結果

○調査票提出数：162件

○外国に輸出する予定のある貨物があると回答したもの（93件）のうち、当該貨物がリスト規制に該当する旨の回答が6件あった。（実際に輸出する際は、別途輸出管理室において該非を再度確認。）

○外国又は留学生・外国人研究者に提供する予定のある技術があると回答したもの（132件）のうち、当該技術がリスト規制に該当する旨の回答が18件あった。（実際に技術提供を行う際は、別途輸出管理室において該非を再度確認。）

第4章 教育・普及啓発活動

本学では、輸出管理の必要性並びに外為法等及び本学の管理体制・手続き等の内容を理解させるとともに、その確実な実施を図るため、安全保障輸出管理委員会が、教育の基本方針に基づき、教員等に対し計画的に教育を行うこととしている。

本学における教育及び普及啓発活動の内容については、以下のとおりである。

1. 教員全学講習会【委員会開催分】

①教員全学講習会（上半期）

演題：『安全保障輸出管理に関する教員全学講習会』

開催日時	会場・講師	参加人数
4月4日（木） 10:55～11:35	会場：工学研究科中央棟2階大会議室 【青葉山地区】 講師：吉見享祐前委員長 ※工学研究科等新規採用等教職員合同研修と併催	114名
5月21日（火） 17:30～18:30	会場：医学系研究科 星陵会館2階大会議室 【星陵地区】 講師：赤池孝章副委員長	13名
5月28日（火） 10:30～11:30	会場：理学研究科 合同C棟多目的室 【北青葉山地区】 講師：石山和志委員長	17名
5月28日（火） 14:00～15:00	会場：エクステンション教育研究棟1階部局長会議室 【片平地区】 講師：石山和志委員長	16名

③ 教員全学講習会（下半期）

演題：『安全保障輸出管理に関する教員全学講習会』

開催日時	会場・講師	参加人数
10月3日（木） 10:55～11:35	会場：工学研究科中央棟2階大会議室 【青葉山地区】 講師：石山和志委員長 ※工学研究科等新規採用等教職員合同研修と併催	92名
11月8日（金） 10:30～11:30	会場：エクステンション教育研究棟1階部局長会議室 【片平地区】 講師：石山和志委員長	16名

開催日時	会場・講師	参加人数
11月19日(火) 10:30~11:30	会場：薬学研究科A棟会議室 【北青葉山地区】 講師：足立幸志副委員長	35名
11月29日(金) 17:00~18:00	会場：星陵会館2階大会議室 【星陵地区】 講師：斎藤芳郎副委員長	13名

2. 実務担当者講習会兼輸出管理担当者研修会【委員会開催分】

①実務担当者講習会兼輸出管理担当者研修会

開催日時	会場	参加人数
7月26日(金) 10:00~11:40	会場：エクステンション教育研究棟1階部局長会議室 講師：安全保障輸出管理室員	26名
11月27日(水) 10:00~11:40	会場：エクステンション教育研究棟1階部局長会議室 講師：安全保障輸出管理室員	29名

3. 安全保障輸出管理アドバイザー研修会【委員会開催分（共催：東北地域大学輸出管理ネットワーク会議）】

①演題：『安全保障輸出管理アドバイザー研修会』

講師：経済産業省 貿易経済協力局 安全保障貿易管理課長

日時：7月29日(月)

会場：金属材料研究所2号館講堂

対象者：安全保障輸出管理アドバイザー（共催のネットワーク会議からの参加：東北地区各大学輸出管理担当者含む）

講演内容等：部局内で該非判定を中心に教員等又は安全保障輸出管理担当者に対し必要な助言を行う安全保障輸出管理アドバイザー向けの職能別研修として開催した。

研修会は、経済産業省安全保障貿易管理課長を講師に迎え、「最新の国際安病情勢動向（米中摩擦による米国の規制強化）」をテーマに、安全保障を取り巻く最近の情勢や、機微技術管理の強化に向けた国際動向等について講義いただいた。

第5章 監査

本学では、本学における輸出管理が、外為法等及び本学の規程に基づき適正に実施されていることを確認するために、安全保障輸出管理委員会が、監査の基本方針に基づき、業務の監査を定期的に行うこととしている。

定期監査の実施体制及び監査結果の概要のほか、その結果を踏まえた対応状況については、以下のとおりである。

I. 実施体制

(1) 実施期間

令和元年9月24日（火）～10月11日（金）

(2) 監査対象部局

【実地監査】

歯学研究科、薬学研究科、多元物質科学研究所、東北アジア研究センター、未来科学技術共同研究センター、マイクロシステム融合研究開発センター、国際集積エレクトロニクス研究開発センター（7部局）（アンダーラインは教員ヒアリング実施部局）

【書面監査】

昨年度の二次監査の結果、「不適切事項」「対応要望事項」に相当する不備が確認された部局（3部局）

(3) 監査項目（主なもの）

- ①判定手続（事前確認、該非判定・取引審査）及び終了前確認の履行状況
- ②部局内の周知、関係部署間の連携及び教育研修の実施状況
- ③委員会審査案件（懸念先を相手先とする案件）の管理状況
- ④前年度の指摘に対する再発防止のための対応（書面監査対象）

(4) 監査方法

【実地監査】上記「(3) 監査項目①～③」について、ヒアリング及び現認

【書面監査】上記「(3) 監査項目④」について、書面による対応状況の確認

(5) 監査対応

【実地監査】

○事務職員ヒアリング

本部：法務・コンプライアンス課長及び安全保障輸出管理室

部局：輸出管理担当者（※部局により、その他実務補助者）及び所定の担当係（係長等又は実務担当者）

○教員ヒアリング

本部：委員長、副委員長、法務・コンプライアンス課長及び安全保障輸出管理室

部局：委員会審査案件等の申請教員及び当該部局の輸出管理アドバイザー

II. 監査結果（概要）

1. 【実地監査】

ヒアリング及び現認による実地監査の結果は、以下のとおり。

(1) 優れた取組み・・・5件（4テーマ）

○部局の管理体制に関するもの	
「安全保障輸出管理委員会」を部局内に置いて、受入や貨物の輸出に関する内容を審議している。【薬学研究科】	
○判定手続の遺漏防止に関するもの	
国際郵便及び国際宅配便についてそれぞれのボックス等に判定手続きの履行依頼を表示し、注意喚起を行っている。【多元物質科学研究所】	
所属教員が兼務している研究科教務担当に学生の在籍状況（4月及び10月現在）を確認し、各研究室の学生を一覧にまとめ、輸出管理手続きの実施確認等に活用している。【東北アジア研究センター】	
○部局内における普及啓発に関するもの	
輸出管理アドバイザーが独自で収集した海外における輸出管理情報等を部局教職員に周知している。【未来科学技術共同研究センター】	
○終了前確認に関するもの	
年度末等学期切替わりの時期に研究室に対し、受入れている研究所等研究生の期間延長の有無や帰国及び進学等について、報告を依頼するとともに終了前確認の実施を周知している。【多元物質科学研究所】	

(2) 改善要請事項・・・該当なし

(3) 不適切事項・・・該当なし

(4) 対応要望事項・・・1件（1テーマ）

○誓約書の取得に関するもの	
現 状	輸出管理担当係は、 <u>細則第8条</u> により、研究生等から誓約書の提出を求めているが、一部受入時に誓約書の取得が確認されないものがあつた。【2部局】
指摘事項	誓約書は、留学生・外国人研究者等が、その意に反し誤って外為法への違反により処分されることなく研究活動に専念できるよう提出いただくものであるため、受入手続きの書類として整理する等、漏れなく確認することを求める。

2. 【書面監査】

昨年度の監査において、「不適切事項」「対応要望事項」を付された3部局のうち2部局については、適切に事後対応を行っていることが、書面監査で確認できた。

一方「対応要望事項」を付された1部局については、書面監査において、再発防止のための適切な措置を講じているとは言い難い状況であったため再度調査したところ、以下の「不適切事項」が確認された。

(1) 不適切事項 ・ ・ ・ 1件（1テーマ）

○判定手続きの履行に関するもの	
現 状	<p>昨年度監査において、留学生の受入れに際し、留学生が身分を有する部局と受入教員の所属部局が異なる場合、留学生所属部局は受入教員所属部局に対して輸出管理手続きの要否の確認をするよう、指摘を受けていたものの、確認を実施していなかった。その結果、受入教員所属部局では留学生の受入れ状況を把握できず、<u>安全保障輸出管理規程第20条及び細則第5条</u>に基づく輸出管理手続きを実施していない事例が確認された。</p> <p>【1部局】</p>
指摘事項	<p>安全保障輸出管理手続きについては、教員が自ら手続きを実施するのは当然のことながら、今回の事例は関係事務が相互に輸出管理手続き実施の要否等を確認することで容易に防ぐことのできた過誤ではないかと思われる。</p> <p>今後、当該部局は受入教員所属部局担当者と連携を密に行い、輸出管理手続きの遺漏防止を徹底されたい。</p>
改善に向けた対応	<p>監査の指摘事項については、翌年度（令和2年度）の定期監査において対応状況を報告すること（別添参照）としているが、昨年度（平成30年度）の指摘に対して未対応であったことにより、他部局にも影響等を及ぼしたことから、関係部局及び安全保障輸出管理室にて打合せを実施し、今後、部局間の連携、関係事務に対する注意喚起及び教員に対する教育等を実施していくことを確認した。</p>

第6章 学外との連携活動等

1. 学外における研修会等への参加

①経済産業省主催関係

- ・名称：令和元年度 大学等向け安全保障貿易管理説明会（関東（東京））
開催日：令和元年10月15日（火）
会場：文部科学省（東京）
本学参加者：安全保障輸出管理室1名
内容：安全保障輸出管理の概要及び大学・研究機関における安全保障輸出管理等
- ・名称：第3回東北地域大学輸出管理ネットワーク会議
開催日：令和元年12月17日（火）
会場：東北経済産業局（仙台）
本学参加者：安全保障輸出管理室2名
- ・名称：令和元年度 安全保障貿易管理説明会
開催日：令和2年1月30日（木）
会場：東北経済産業局（仙台）
本学参加者：安全保障輸出管理室1名
内容：安全保障輸出管理、法令順守のポイント

②C I S T E C等主催関係

- ・名称：令和元年度 安全保障貿易管理説明会（政省令等改正の説明）
開催日：令和元年12月13日（金）
本学参加者：安全保障輸出管理室1名
内容：輸出管理関連政省令、告示及び通達等に係る改正の趣旨・概要

③その他

- ・名称：大学に関連したリスク管理の講習会
開催日：令和元年9月11日（水）
会場：東京大学（東京）
本学参加者：2名（安全保障輸出管理室1名含）
内容：米国の大学におけるリスクマネジメント等

2. 学外に向けた対応

- ・名称：「中国地域大学等輸出管理ネットワーク」会議（山口）
開催日：令和元年7月9日（火）
講演者：佐々木孝彦 教授（安全保障輸出管理委員会アドバイザー）
内容：東北大学での安全保障輸出管理
- ・名称：令和元年度 大学等向け安全保障貿易管理説明会（関東（東京））
開催日：令和元年10月15日（火）
会場：文部科学省（東京）
講演者：佐々木孝彦 教授（安全保障輸出管理委員会アドバイザー）
内容：大学で安全保障輸出管理を運用するポイントー東北大学を例としてー
- ・名称：島根大学研究倫理セミナー（松江）
開催日：令和2年1月9日（木）
会場：島根大学
講演者：佐々木孝彦 教授（安全保障輸出管理委員会アドバイザー）
内容：大学における安全保障輸出管理の必要性
- ・名称：「中国地域大学等輸出管理ネットワーク」会議（広島）
開催日：令和2年2月19日（水）
講演者：佐々木孝彦 教授（安全保障輸出管理委員会アドバイザー）
内容：濃淡管理の判断ー東北大学での運用経験をもとにしてー

3. 学外からの来訪対応

- ・タイ政府研修
開催日：令和元年8月1日（木）
講演者：佐々木孝彦 教授（安全保障輸出管理委員会アドバイザー）
内容：東北大学での安全保障輸出管理
- ・岡山大学
ご来訪日：令和元年12月5日（木）

資 料

○国立大学法人東北大学安全保障輸出管理規程

平成22年1月27日

規第1号

国立大学法人東北大学安全保障輸出管理規程

目次

- 第1章 総則（第1条—第4条）
- 第2章 管理体制（第5条—第12条）
- 第3章 安全保障輸出管理委員会（第13条—第19条）
- 第4章 手続（第20条—第22条）
- 第5章 管理（第23条—第26条）
- 第6章 危機管理（第27条）
- 第7章 教育（第28条・第29条）
- 第8章 監査（第30条）
- 第9章 懲戒（第31条）
- 第10章 雑則（第32条・第33条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は、国立大学法人東北大学（以下「本学」という。）における安全保障輸出の適切な管理について必要な事項を定め、もって国際的な平和及び安全の維持並びに学術研究の健全な発展に寄与することを目的とする。

（適用範囲）

第2条 この規程は、本学の教員その他の職員（以下「教員等」という。）が行う技術（外国為替令（昭和55年政令第260号。以下「外為令」という。）別表中欄に掲げる技術をいう。以下同じ。）の提供及び貨物（輸出貿易管理令（昭和24年政令第378号。以下「輸出令」という。）別表第1中欄に掲げる貨物をいう。以下同じ。）の輸出に適用する。

（定義）

第3条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 外為法等 外国為替及び外国貿易法（昭和24年法律第228号。以下「外為法」という。）及びこれに基づく命令、通達等をいう。
- 二 技術の提供 外国における技術の提供若しくはこれを目的として行う特定記録媒体等の輸出若しくは電気通信による情報の送信又は非居住者（外為法第6条第1項第6号に定める者をいう。）への技術の提供（非居住者へ再提供されることが明らかな又はその可能性が高い居住者（外為法第6条第1項第5号に定める者をいう。）への技術の提供を含む。）をいい、情報交

換に伴うものを含む。

三 貨物の輸出 外国を仕向地として貨物を送付すること（外国に向けて貨物を携行すること及び貨物の国内における送付で、外国を仕向地として送付されることが明らかなものを含む。）をいう。

四 取引 技術の提供又は貨物の輸出をいう。

五 部局 各研究科、各附置研究所、病院、国立大学法人東北大学組織運営規程（平成16年規第1号。以下「組織運営規程」という。）第20条第1項に規定する各機構、同条第3項に規定する研究組織、組織運営規程第21条に規定する各学内共同教育研究施設等及び組織運営規程第22条から第27条までに規定するセンター等をいう。

六 リスト規制技術 外為令別表の1の項から15の項までに定める技術をいう。

七 リスト規制貨物 輸出令別表第1の1の項から15の項までに定める貨物をいう。

八 該非判定 提供しようとする技術又は輸出しようとする貨物が、リスト規制技術又はリスト規制貨物（以下「リスト規制技術等」という。）に該当するか否かを判定することをいう。

九 取引審査 該非判定の内容のほか、取引の相手先又は相手先における用途の内容を踏まえ、本学として当該取引を行うか否かを判断することをいう。

十 大量破壊兵器等 核兵器、軍用の化学製剤若しくは細菌製剤若しくはこれらを散布するための装置又はこれらを運搬することのできるロケット若しくは無人航空機をいう。

十一 通常兵器 輸出令別表第1の1の項の中欄に掲げる貨物（大量破壊兵器等に該当するものを除く。）をいう。

十二 開発等 開発、製造、使用又は貯蔵を行うことをいう。

（基本方針）

第4条 本学における安全保障輸出管理（以下「輸出管理」という。）の基本方針は、次に掲げるとおりとする。

一 国際的な平和及び安全の維持を妨げるおそれがあると判断される取引は行わないこと。

二 取引に当たっては、外為法等及びこの規程（この規程により別に定めるものを含む。）を遵守すること。

三 輸出管理を適切に実施するため、輸出管理の責任者を定めるとともに、輸出管理に係る体制の整備及び充実を図ること。

第2章 管理体制

（安全保障輸出管理最高責任者）

第5条 本学における輸出管理上の重要事項の最終的な決定を行うため、本学に、安全保障輸出管理最高責任者（以下「最高責任者」という。）を置く。

2 最高責任者は、総長をもって充てる。

（安全保障輸出管理統括責任者）

第6条 本学に、最高責任者の命を受け、本学における輸出管理に係る業務を統括させるため、安全保障輸出管理統括責任者（以下「統括責任者」という。）を置く。

2 統括責任者は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(安全保障輸出全学管理責任者)

第7条 本学に、統括責任者の命を受け、本学における輸出管理に係る業務を掌理させるため、安全保障輸出全学管理責任者（以下「全学管理責任者」という。）を置く。

2 全学管理責任者は、統括責任者が指名する本学の教員等をもって充てる。

(安全保障輸出管理マネージャー)

第8条 本学に、全学管理責任者の命を受け、その業務を補佐させるため、安全保障輸出管理マネージャー（以下「輸出管理マネージャー」という。）を置く。

2 輸出管理マネージャーは、次条第2項に定める安全保障輸出管理室長をもって充てる。

(安全保障輸出管理室)

第9条 本学における輸出管理に関する事項について企画し、連絡調整し、及びその業務を処理するとともに、教員等からの相談及び通報への対応に当たるため、別に定めるところにより、本学に、安全保障輸出管理室（以下「管理室」という。）を置く。

2 管理室に、別に定めるところにより、室長を置く。

(安全保障輸出部局管理責任者等)

第10条 部局に、当該部局における輸出管理に関する業務を統括させるため、安全保障輸出部局管理責任者（以下「部局管理責任者」という。）を置く。

2 部局管理責任者は、部局の長をもって充てる。

3 部局管理責任者は、当該部局における輸出管理を適正かつ効果的に実施するため必要があると認めるときは、その指名する教員等に業務を補佐させることができる。

(安全保障輸出管理アドバイザー)

第11条 部局管理責任者は、外為法等における専門的な助言を行わせることにより、当該部局における輸出管理を円滑に実施するため必要があると認めるときは、安全保障輸出管理アドバイザー（以下「輸出管理アドバイザー」という。）を置くことができる。

2 前項の規定により輸出管理アドバイザーを置く場合において、部局の事情によって固有の輸出管理アドバイザーを置くことが困難な場合は、複数の部局が合同でこれを置くことができる。

3 輸出管理アドバイザーは、部局管理責任者が指名する教員等（前項の規定により複数の部局が合同で置く場合にあつては、当該複数の部局の部局管理責任者が指名する当該複数の部局の教員等）をもって充てる。

(安全保障輸出管理担当者)

第12条 部局に、当該部局の部局管理責任者の命を受け、当該部局における輸出管理に関する事務を処理させるため、安全保障輸出管理担当者（以下「輸出管理担当者」という。）を置く。ただし、部局の事情によって固有の輸出管理担当者を置くことが困難な場合は、複数の部局が合同でこれを置くことができる。

2 輸出管理担当者は、前項本文の規定に定める場合にあつては当該部局の部局管理責任者が指名する当該部局の事務職員をもって、前項ただし書の規定に定める場合にあつては当該複数の部局の部局管理責任者が指名する当該複数の部局の事務職員をもって充てる。

第3章 安全保障輸出管理委員会

(安全保障輸出管理委員会の設置)

第13条 本学に、安全保障輸出管理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第14条 委員会の所掌事項は、次に掲げるとおりとする。

- 一 該非判定及び取引審査の本部判定の審議に関する事項
- 二 輸出管理に係る規程等の制定及び改廃の審議に関する事項
- 三 輸出管理に係る教育及び監査の実施に関する事項
- 四 統括責任者からの諮問事項の調査審議に関する事項
- 五 その他輸出管理に関する重要事項

(組織)

第15条 委員会は、委員長及び次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 部局管理責任者が指名する輸出管理アドバイザー
- 二 総務企画部長並びに総務企画部法務・コンプライアンス課長、総務企画部国際企画課長、人事企画部人事給与課長、教育・学生支援部留学生課長及び財務部資産管理課長
- 三 輸出管理マネージャー
- 四 その他委員会が必要と認めた者 若干人

(委員長)

第16条 委員会の委員長は、全学管理責任者をもって充てる。

2 委員長は、委員会の会務を総理する。

(委嘱)

第17条 第15条第4号に掲げる委員は、総長が委嘱する。

(任期)

第18条 第15条第4号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(構成員以外の者の出席)

第19条 委員会は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を委員会に出席させて説明又は意見を聴くことができる。

第4章 手続

(事前確認)

第20条 教員等は、取引を行おうとするときは、別に定めるところにより、所定の輸出管理シートに基づき外為令の例外規定（外為令第17条第5項の規定をいう。）への該当の有無等について確認を行い、該非判定及び取引審査の手続の要否について部局管理責任者の事前確認を得なければならない。

(該非判定・取引審査)

第21条 教員等は、前条により該非判定及び取引審査の手続を要する旨部局管理責任者の事前確認を得た取引を行おうとするとき又は大量破壊兵器等若しくは通常兵器の開発等に用いられるお

それがあつるものとして経済産業大臣から許可申請すべき旨の通知を受けた取引その他別に定める取引を行おうとするときは、所定の輸出管理シートに基づき次に掲げる確認を行い、別に定めるところにより、部局管理責任者又は統括責任者若しくは全学管理責任者による該非判定及び取引審査を受け、その承認を得なければならない。

- 一 該非の確認 提供しようとする技術又は輸出しようとする貨物がリスト規制技術等に該当するか否かを確認すること。
 - 二 輸出令の例外規定の確認 前号により輸出しようとする貨物がリスト規制貨物に該当することを確認した場合に、当該貨物が輸出令第4条第1項の規定に該当するか否かを確認すること。
 - 三 相手先の確認 取引の相手先について、大量破壊兵器等又は通常兵器の開発等への関与が懸念されるか否かを確認すること。
 - 四 用途の確認 取引の相手先における用途について、大量破壊兵器等又は通常兵器の開発等に用いられるおそれがないか否かを確認すること。
- 2 教員等は、取引審査により承認が得られた取引において、提供しようとする技術若しくは輸出しようとする貨物の仕様に変更が生じた場合又は提供しようとする技術若しくは輸出しようとする貨物に追加が生じた場合は、改めて前条の規定により所定の輸出管理シートに基づき部局管理責任者の事前確認を得るものとする。

(役務取引許可又は輸出許可に係る申請)

第22条 教員等は、取引審査により部局管理責任者又は統括責任者若しくは全学管理責任者から経済産業大臣の許可を要するものとして承認が得られた取引を行おうとする場合は、外為法等の定めるところにより役務取引許可申請書若しくは特定記録媒体等輸出等許可申請書又は輸出許可申請書を作成し、別に定めるところにより輸出管理マネージャーの確認を得なければならない。

- 2 教員等は、前項の規定により輸出管理マネージャーの確認が得られた場合は、別に定めるところにより、最高責任者からの委任に基づき経済産業大臣あて許可申請を行うものとする。
- 3 教員等は、外為法等に基づく経済産業大臣の許可が必要な取引については、経済産業大臣の許可を得ない限り、当該取引を行ってはならない。

第5章 管理

(調査)

第23条 統括責任者は、輸出管理を適正かつ効果的に実施するため、別に定めるところにより、毎年、所定の調査票に基づき、リスト規制技術等の保有状況等について調査を行うものとする。

(技術の提供管理)

第24条 教員等は、技術の提供を行う場合は、事前確認又は該非判定及び取引審査の手続が終了し、及び技術の内容に変更がないことを確認しなければならない。

- 2 前項に定めるもののほか、教員等は、当該技術の提供が外為法等に基づく経済産業大臣の許可が必要な技術の提供であるときは、当該許可を得ていることを合わせて確認しなければならない。
- 3 教員等は、前二項の確認ができない場合には、当該技術の提供を行ってはならない。

(貨物の輸出管理)

第25条 教員等は、貨物の輸出を行う場合は、事前確認又は該非判定及び取引審査の手続が終了

し、及び貨物の内容に変更がないことを確認しなければならない。

- 2 前項に定めるもののほか、教員等は、当該貨物の輸出が外為法等に基づく経済産業大臣の許可が必要な貨物の輸出であるときは、当該許可を得ていることを合わせて確認しなければならない。
- 3 教員等は、前二項の確認ができない場合には、当該貨物の輸出を行ってはならない。
- 4 教員等は、貨物の輸出を行う場合において通関時に事故が発生したときは、直ちに当該輸出の手続きを取り止め、全学管理責任者にその旨を報告しなければならない。
- 5 全学管理責任者は、前項の報告があった場合には、統括責任者と協議の上、適切な措置を講じるものとする。

(文書等の保存等)

第26条 教員等は、輸出管理の手続に必要な文書、図画又は電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。以下同じ。）の作成に当たっては、事実に基づき正確に記載しなければならない。

- 2 教員等は、輸出管理に係る文書、図画又は電磁的記録について、別に定めるところにより、技術が提供された日又は貨物が輸出された日の属する年度の翌年度の初日から起算して、少なくとも7年間保管しなければならない。

第6章 危機管理

(通報及び報告)

第27条 教員等は、外為法等若しくはこの規程に対する違反若しくは違反のおそれがあることを知った場合又は外国において技術若しくは貨物を紛失し、若しくは盗難に遭った場合は、速やかに部局管理責任者を經由して全学管理責任者にその旨を通報しなければならない。

- 2 全学管理責任者は、前項の通報があった場合は、直ちに統括責任者にその旨を通報するとともに、当該通報の内容を調査し、その結果を統括責任者に報告しなければならない。
- 3 統括責任者は、前項の報告において、外為法等に違反している事実が明らかとなった場合又は違反したおそれがある場合は、速やかに学内の関係部署に対応措置を指示するとともに、遅滞なく関係行政機関に報告するものとする。この場合において、当該報告の内容が特に重大な違反であるときは、あらかじめ最高責任者に報告し、対応について協議するものとする。
- 4 前項に定めるもののほか、部局管理責任者又は統括責任者若しくは全学管理責任者は、取引審査において取引を承認した後（経済産業大臣の許可が必要な取引にあつては、当該許可が得られた後）、当該取引について大量破壊兵器等又は通常兵器の開発等に用いられるおそれ、その他輸出管理上の懸念があることが明らかとなった場合は、統括責任者にあつては最高責任者に、部局管理責任者又は全学管理責任者にあつては統括責任者を經由して最高責任者に遅滞なく報告し、対応について協議するとともに、関係行政機関に報告するものとする。

第7章 教育

(教員等への教育)

第28条 外為法等及びこの規程の遵守について理解させるとともに、その確実な実施を図るため、委員会は、統括責任者が定める輸出管理に係る教育の基本方針に基づき、教員等に対し、輸出管理に関する教育を計画的に行うものとする。

2 部局管理責任者は、当該部局の教員等に対し、輸出管理について理解を深め、及び意識の高揚を図るための啓発その他必要な情報の提供に努めるものとする。

(学生等への教育)

第29条 教員等は、リスト規制技術等を保管し、又は使用する教室、研究室等を利用する学生等に対し、外為法等の理解を深めさせるため、必要な教育を行うよう努めるものとする。

第8章 監査

(監査)

第30条 本学における輸出管理が、外為法等及びこの規程に基づき適正に実施されていることを確認するため、委員会は、統括責任者が定める輸出管理に係る監査の基本方針に基づき、業務の監査を定期的に行うものとする。

2 委員会は、前項の監査の実施に当たり必要と認めるときは、統括責任者が指名する教員等又は外為法等に関し専門的知識を有する教員等以外の者に行わせることができる。

第9章 懲戒

(懲戒)

第31条 故意又は重大な過失によりこの規程に違反した教員等及びこれに関与した教員等は、国立大学法人東北大学職員就業規則（平成16年規第46号）その他適用される就業規則の規定に基づく懲戒の対象とする。

第10章 雑則

(事務)

第32条 輸出管理に関する事務は、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第33条 この規程に定めるもののほか、輸出管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成22年3月1日から施行し、第26条第2項の規定は、平成21年11月1日以後の取引に係る文書、図画及び電磁的記録から適用する。
- 2 この規程の施行後最初に委嘱される委員会の委員の任期は、第18条第1項本文の規定にかかわらず、平成23年3月31日までとする。

附 則（平成22年4月13日規第55号改正）

この規程は、平成22年4月13日から施行し、改正後の第3条第5号の規定は、平成22年4月1日から適用する。

附 則（平成22年7月13日規第73号改正）

この規程は、平成22年7月13日から施行し、改正後の第15条第2号の規定は、平成22年7月1日から適用する。

附 則（平成22年11月9日規第94号改正）

この規程は、平成22年12月1日から施行する。

附 則（平成23年2月9日規第4号改正）

- 1 この規程は、平成23年2月9日から施行する。
- 2 この規程施行の際現に改正前の第20条又は第21条の規定により事前確認又は該非判定及び取引審査の手續を行っている取引に係る事前確認又は該非判定及び取引審査の手續は、改正後の第20条又は第21条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成23年10月11日規第94号改正）

この規程は、平成23年10月11日から施行し、改正後の第15条第2号の規定は、平成23年10月1日から適用する。

附 則（平成24年3月13日規第20号改正）

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年5月8日規第64号改正）

この規程は、平成24年5月8日から施行し、改正後の第3条第5号の規定は平成24年2月1日から、改正後の第15条第2号の規定は平成24年4月1日から適用する。

附 則（平成25年4月23日規第79号改正）

この規程は、平成25年4月23日から施行し、改正後の第3条第5号及び第15条第2号の規定は、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成26年4月22日規第98号改正）

この規程は、平成26年4月22日から施行し、改正後の第3条第5号及び第15条第2号の規定は、平成26年4月1日から適用する。

附 則（平成26年7月8日規第129号改正）

この規程は、平成26年7月8日から施行し、改正後の第3条第5号の規定は、平成26年7月1日から適用する。

附 則（平成26年12月22日規第158号改正）

この規程は、平成26年12月22日から施行し、改正後の第3条第5号の規定は、平成26年10月1日から適用する。

附 則（平成27年4月28日規第70号改正）

この規程は、平成27年4月28日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則（平成28年4月26日規第60号改正）

この規程は、平成28年4月26日から施行し、〔中略〕平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成29年4月25日規第98号改正）

この規程は、平成29年4月25日から施行し、改正後の第3条第5号の規定は、平成29年4月1日から適用する。

附 則（平成30年5月8日規第126号改正）

この規程は、平成30年5月8日から施行し、改正後の第3条第5号の規定（「及び」を「、」に改める部分、「第29条」を「第27条」に改める部分及び「規定するセンター等」の次に「、材料科学高等研究所及び学際科学フロンティア研究所」を加える部分に限る。）は、平成30年1月30日から、改正後の同項の規定（「、教育情報学研究部」を削る部分に限る。）は、平成30年4月1日から適用する。

附 則（平成30年9月11日規第156号改正）

この規程は、平成30年9月11日から施行し、改正後の第15条第2号の規定は、平成30年7月1日から適用する。

附 則（平成31年4月23日規第86号改正）

この規程は、平成31年4月23日から施行し、改正後の第3条第5号及び第15条第2号の規定は、平成31年4月1日から適用する。

附 則（令和元年7月9日規第14号改正）

この規程は、令和元年7月9日から施行し、改正後の第15条第2号の規定は、令和元年7月1日から適用する。

東北大学安全保障輸出管理体制図

《 東北大学 》

最高責任者(総長)

統括責任者(理事・副学長)

《本部》

安全保障輸出管理委員会

委員長(全学管理責任者)

副委員長(2名)

委員(事務職員)

安全保障輸出管理室

・室長(輸出管理マネージャー)

関係部署の長

委員(教員)

・輸出管理アドバイザー

・その他委員会が必要と認めた者

《部局》

部局管理責任者(部局長)

専攻長等

輸出管理担当者

輸出管理アドバイザー

所定の担当係

申請者(教員等)

①基本方針・基本施策の決定

②規程の改廃

③危機発生時の対応策の最終決定

④輸出管理上の重要事項に関する決定

①輸出業務の統括

②規程に基づく細則等の制定及び改廃

③該非判定・取引審査の最終確認

④監査及び教育に係る基本方針の策定

⑤危機発生時の対応策の策定

【委員長・全学輸出管理責任者】

①輸出管理業務の実務上の統括

②該非判定・取引審査の本部判定

③危機発生時の総括及び情報管理

④監査及び教育の実施(総括)

【安全保障輸出管理室・室長(輸出管理マネージャー)】

①全学管理責任者の補佐

②教員等からの相談への対応

③経済産業省への問い合わせ窓口

④規程、細則等の立案

⑤監査及び教育の実施(企画・実務)

⑥危機発生時の初期対応・連絡調整

⑦法令情報及び学内外の情報収集・整理

【安全保障輸出管理委員会委員】

①該非判定・取引審査の本部判定への助言

②その他輸出管理に係る専門的助言

①部局における輸出管理業務の統括

②該非判定・取引審査の部局判定

③外国における技術・貨物の紛失・盗難時の通報

④危機発生時の報告

①外為法上の専門的助言

本部責任者等名簿(令和元年度)

責任者等	氏名	職名
最高責任者	大野 英男	総長
統括責任者	植木 俊哉	副学長（総務・財務・国際展開担当）
委員長兼 全学管理責任者	石山 和志	電気通信研究所 教授
副委員長兼 輸出管理アドバイザー	足立 幸志	大学院工学研究科 教授
副委員長兼 輸出管理アドバイザー	斎藤 芳郎	大学院薬学研究科 教授
委員兼 総務企画部長	齋藤 仁	総務企画部長
委員兼 総務企画部法務・コンプライアンス 課長兼安全保障輸出管理室長 輸出管理マネージャー	木村 賢一	総務企画部法務・コンプライアンス課長 兼安全保障輸出管理室長

(令和2年3月31日現在)

安全保障輸出管理委員会委員 名簿（令和元年度）

No.	区分	氏名	所属・役職
1	委員長	石山和志	電気通信研究所 教授
2	副委員長	足立幸志	工学研究科 教授
3	副委員長	斎藤芳郎	薬学研究科 教授
4	委員	飛田博実	理学研究科 教授
5	委員	掛川武	理学研究科 教授
6	委員	赤池孝章	医学系研究科 教授
7	委員	鈴木貴	医学系研究科 教授
8	委員	齋藤正寛	歯学研究科 教授
9	委員	橋田俊之	工学研究科 教授
10	委員	河野達仁	情報科学研究科 教授（工学研究科委員）
11	委員	吉田和哉	工学研究科 教授
12	委員	小倉振一郎	農学研究科 教授
13	委員	鏡慎吾	情報科学研究科 准教授
14	委員	佐藤修正	生命科学研究科 准教授
15	委員	八代圭司	環境科学研究科 准教授
16	委員	芳賀洋一	医工学研究科 教授
17	委員	加藤秀実	金属材料研究所 教授
18	委員	小笠原康悦	加齢医学研究所 教授
19	委員	伊賀由佳	流体科学研究所 教授
20	委員	高桑雄二	多元物質科学研究所 教授
21	委員	伊藤潔	災害科学国際研究所 教授
22	委員	後藤章夫	東北アジア研究センター 助教
23	委員	末包文彦	ニュートリノ科学研究センター 教授
24	委員	粕壁善隆	高度教養教育・学生支援機構 教授
25	委員	津田健治	学際科学フロンティア研究所 教授

26	委員	寺川貴樹	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 教授
27	委員	平塚洋一	未来科学技術共同研究センター 講師
28	委員	後藤英昭	サイバーサイエンスセンター 准教授
29	委員	熊代良太郎	材料科学高等研究所 特任准教授
30	委員	坪井明人	東北メディカル・メガバンク機構 教授
31	委員	布施昇男	東北メディカル・メガバンク機構 教授
32	委員	戸津健太郎	マイクロシステム融合研究開発センター 准教授
33	委員	羽生貴弘	国際集積エレクトロニクス研究開発センター 教授
34	委員	齋藤仁	総務企画部長
35	委員	木皿卓郎	人事企画部人事給与課長
36	委員	吉越忠助	教育・学生支援部留学生課長
37	委員	安藤元光	財務部資産管理課長
38	委員	乳井まさこ	国際交流課長
39	委員	木村賢一	総務企画部法務・コンプライアンス課長 兼安全保障輸出管理室長 輸出管理マネージャー

(令和2年3月31日現在)

安全保障輸出管理委員会アドバイザー 名簿

No.	氏名	所属・役職	在任時職名	在任期間
1	橋爪 秀利	大学院工学研究科 教授	委員長 全学管理責任者	平成 22 年 3 月 1 日～ 平成 24 年 3 月 31 日
2	根東 義則	大学院薬学研究科 教授	副委員長	平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 3 月 31 日
3	大町真一郎	大学院工学研究科 教授	副委員長	平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 26 年 3 月 31 日
4	佐々木孝彦	金属材料研究所 教授	委員長 全学管理責任者	平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 27 年 3 月 31 日
5	倉田祥一郎	大学院薬学研究科 教授	副委員長	平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
6	吉見 享祐	大学院工学研究科 教授	委員長 全学管理責任者 ※26 年度は副委員長	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 31 年 3 月 31 日
7	赤池 孝章	大学院医学系研究科 教授	副委員長	平成 29 年 4 月 1 日～ 令和元年 9 月 30 日

(令和 2 年 3 月 31 日現在)

安全保障輸出管理アドバイザー 名簿（令和元年度）

（委員を兼ねない者に限る）

No.	氏名	部局名
1	川勝 年洋	理学研究科 教授
2	都築 暢夫	理学研究科 教授
3	古川 徹	医学系研究科 教授
4	高瀬 圭	医学系研究科 教授
5	大和田祐二	医学系研究科 教授
6	神垣 太郎	医学系研究科 教授
7	亀井 尚	医学系研究科 教授
8	坂田 泰彦	医学系研究科 教授
9	本間 経康	医学系研究科 教授
10	須川 成利	工学研究科 教授
11	壺岐 伸彦	工学研究科 教授
12	佐々木孝彦	金属材料研究所 教授
13	山根 久典	多元物質科学研究所 教授
14	佐藤 源之	東北アジア研究センター 教授

（令和2年3月31日現在）

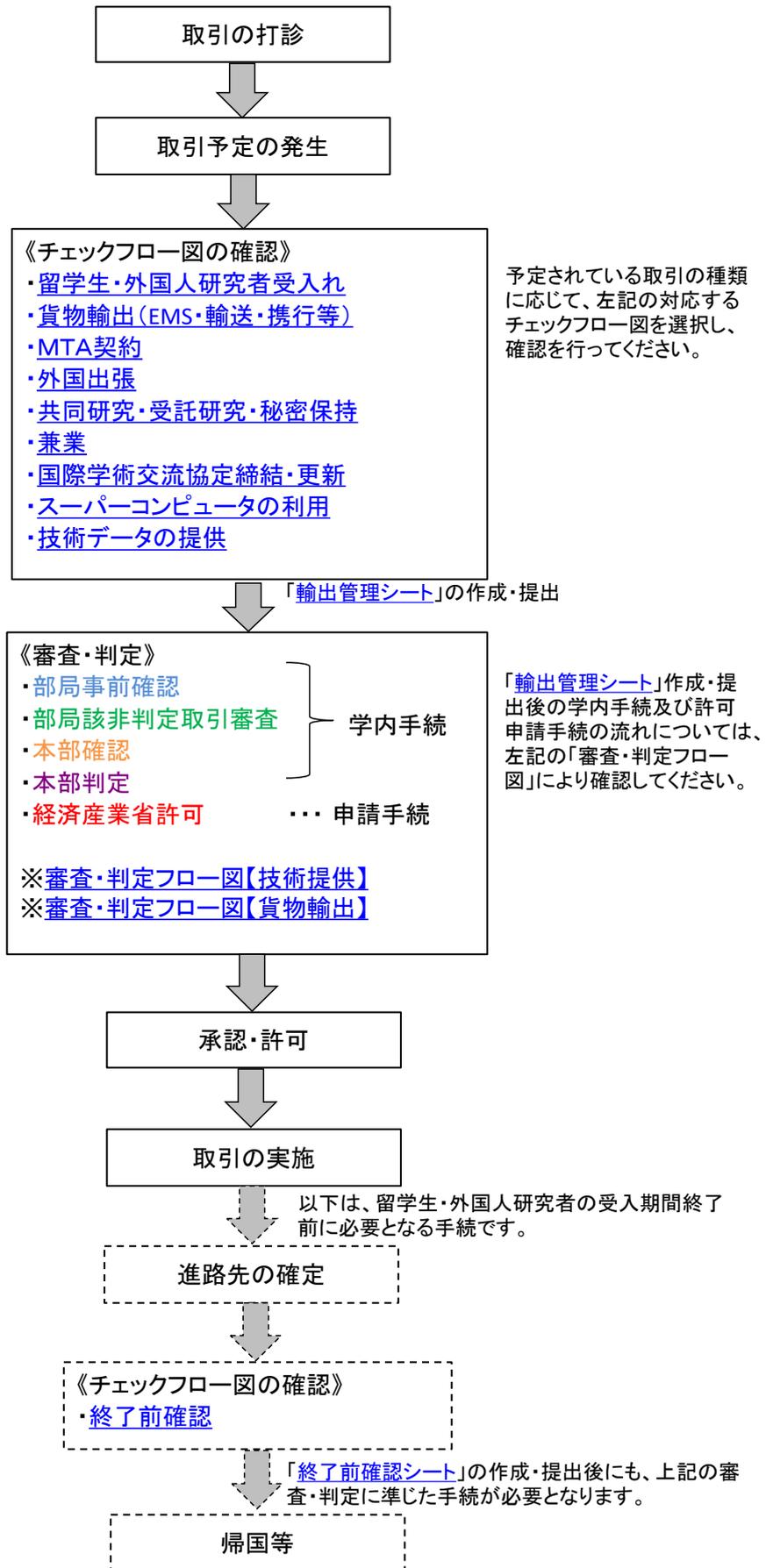
安全保障輸出管理担当者 名簿

所属・役職（補助者）	担当部局名
文学部・文学研究科総務企画係長	文学研究科
教育学部・教育学研究科総務企画係長	教育学研究科
法学部・法学研究科総務企画係長	法学研究科
経済学部・経済学研究科総務企画係長	経済学研究科
理学部・理学研究科総務企画係長	理学研究科 電子光物理学研究センター ニュートリノ科学研究センター 学術資源研究公開センター（総合学術博物館・植物園） 数理科学連携研究センター
医学部・医学系研究科 総務課長 （医学部・医学系研究科総務係）	医学系研究科 動物実験センター オープンイノベーション戦略機構
歯学部・歯学研究科専門職員	歯学研究科
薬学部・薬学研究科総務係長	薬学研究科
工学部・工学研究科総務課長 （工学部・工学研究科総務課総務係）	工学研究科 環境科学研究科 医工学研究科 未来科学技術共同研究センター 国際集積エレクトロニクス研究開発センター レアメタル・グリーンイノベーション 研究開発センター 原子炉廃止措置基盤研究センター 環境保全センター
農学部・農学研究科事務長 （農学部・農学研究科総務係）	農学研究科
国際文化研究科総務係長	国際文化研究科
情報科学研究科総務係長	情報科学研究科 タフ・サイバーフィジカル AI 研究センター
生命科学研究科総務係主任	生命科学研究科
金属材料研究所総務課研究協力係長	金属材料研究所 先端電子顕微鏡センター

所属・役職（補助者）	担当部局名
加齢医学研究所研究推進係長	加齢医学研究所 遺伝子実験センター スマート・エイジング学術重点研究センター
流体科学研究所総務係長	流体科学研究所
電気通信研究所総務係長	電気通信研究所 ヨッタインフォマティクス研究センター 先端スピントロニクス研究開発センター スピントロニクス学術連携研究教育センター 電気通信研究機構
多元物質科学研究所研究協力係長	多元物質科学研究所
災害科学国際研究所総務係長	災害科学国際研究所
東北大学病院研究推進室 研究協力係長	病院
国際文化研究科 （東北アジア研究センター担当）主任	東北アジア研究センター
学務課学務企画係長	高等教養教育・学生支援機構 データ駆動科学・AI 教育研究センター オープンオンライン教育研究開発推進センター
学際科学フロンティア研究所 事務室	学際フロンティア研究所
サイクロトロン・ラジオアイソトープセ ンター事務室長	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
情報部情報基盤課総務係長	サイバーサイエンスセンター
埋蔵文化財調査室	埋蔵文化財調査室
材料科学高等研究所安全衛生管理室	材料科学高等研究所 知の創出センター
東北メディカル・メガバンク機構 研究協力係長	東北メディカル・メガバンク機構 未来型医療創生センター
マイクロシステム融合研究開発センター 支援室長	マイクロシステム融合研究開発センター
環境安全推進課 環境・安全スタッフ	環境・安全推進センター
イノベーション戦略推進センター	イノベーション戦略推進センター事務支援室長

（令和2年3月31日現在）

《基本フロー図》



判定手続のフロー図

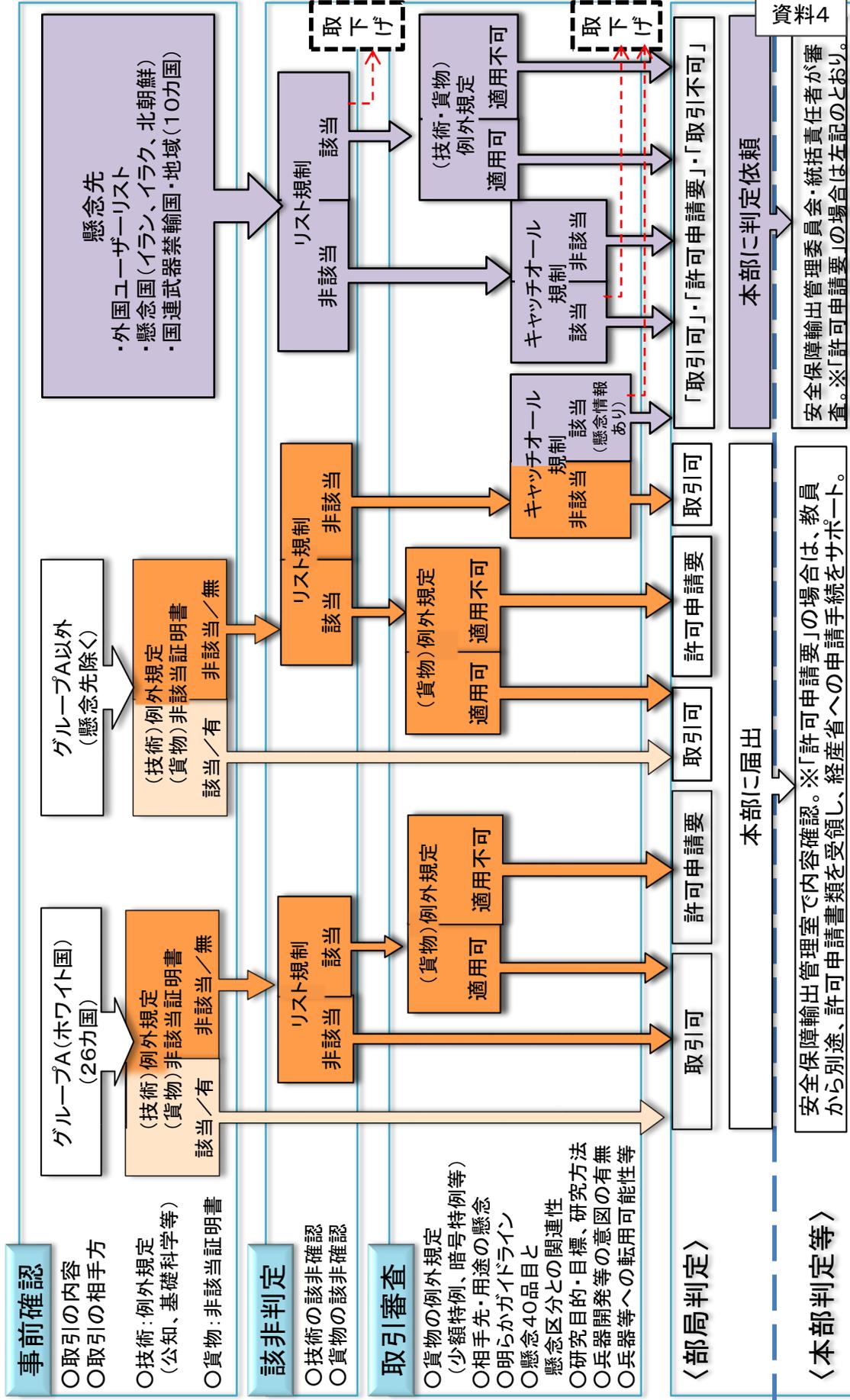
技術提供・貨物輸出

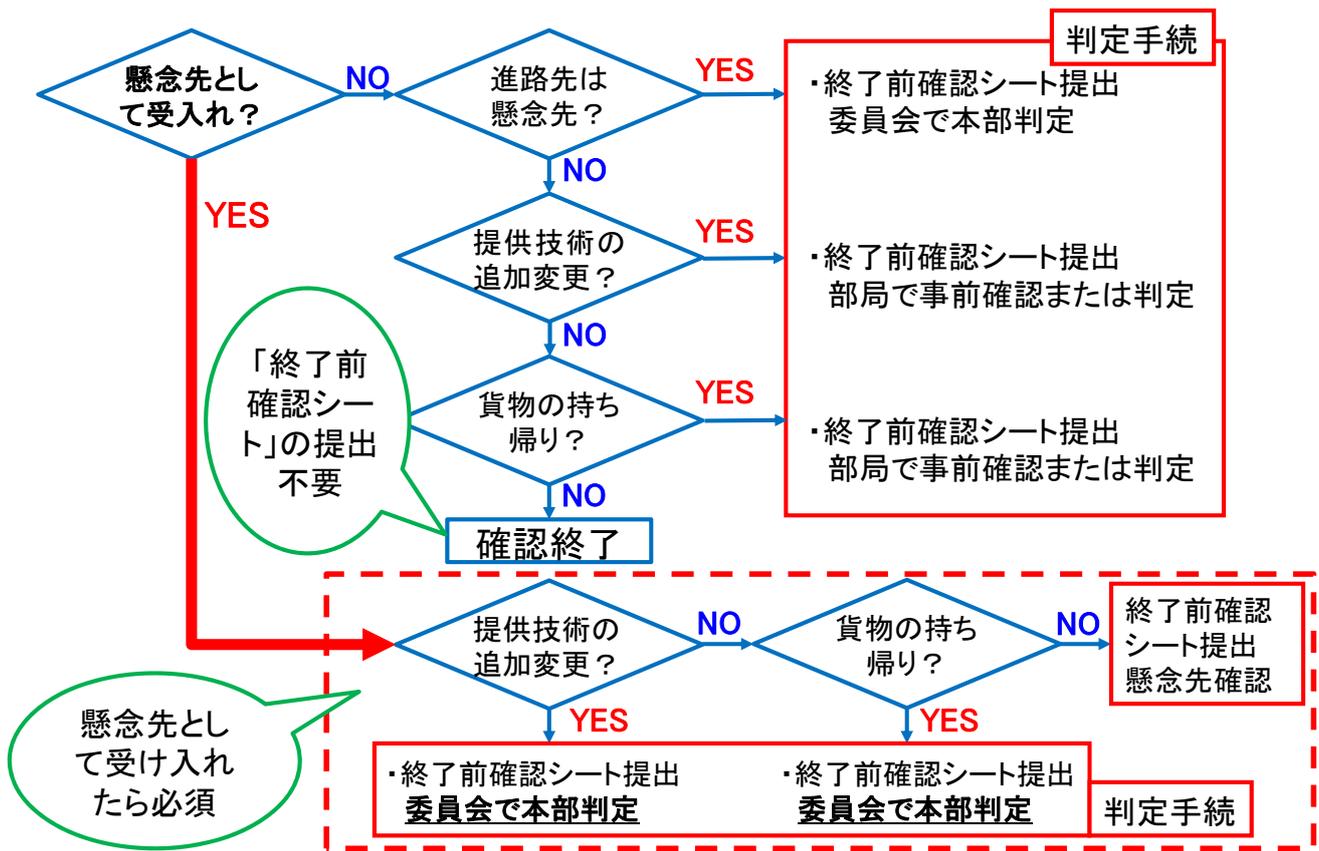


フロー図（技術提供・貨物輸出）により手続の有無をチェック



【輸出管理シート】を作成（※手続有の場合） → 部局窓口へ提出





安全保障輸出管理に関する 教員全学講習会

日時 令和元年11月8日(金) 10:30~11:30
場所 エクステンション教育研究棟1階 部局長会議室(片平地区)
講師 安全保障輸出管理委員会委員長
電気通信研究所 教授 石山 和志

© 2019 Tohoku University

1



自己紹介

電気通信研究所 生体電磁情報研究室 教授 石山和志

大学院

工学研究科/電気エネルギーシステム専攻/生体電磁情報

医工学研究科/医工学専攻/マイクロ・磁気デバイス医工学

研究テーマ

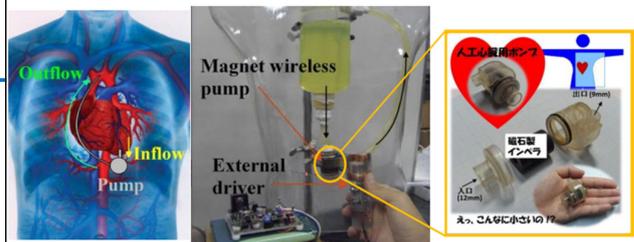
- 磁気センシングシステム
- マイクロ磁気アクチュエータ
- 磁性材料

研究室所属の留学生

中国・電子科技大学
(ユーザーリスト掲載機関)から
1名昨年度まで受入れ

ワイヤレス駆動する補助人工心臓ポンプ

体内に埋め込むことを想定した、モーター・電池・電線の無い小型の補助人工心臓用ポンプを、磁力を使ってワイヤレスで動かします。



磁気の利用して低侵襲医療の実現に貢献

- ◆ 日本における急速なグローバル化の進展を背景に、文部科学省は**大学の国際化**を進める事業を展開
- ◆ 本学では「**指定国立大学法人**」の指定を受け、世界三十傑大学を目指し、人材育成・研究力強化事業を推進

- ✓ 国際共同大学院を中心とした特色ある学位プログラムの提供
 - ・ダブルディグリープログラム等による外国人留学生の増加
- ✓ 世界トップレベル研究拠点の形成
 - ・世界水準の教育環境・人材育成の実施
 - 海外有力大学等との共同研究等の増加

アクセラ

大学の推進力となるもの

先生方の活動を制限するものではなく、自由な教育・研究環境を保証するための前提となるもの

安全保障輸出管理

ブレーキ？
ではなく..

3

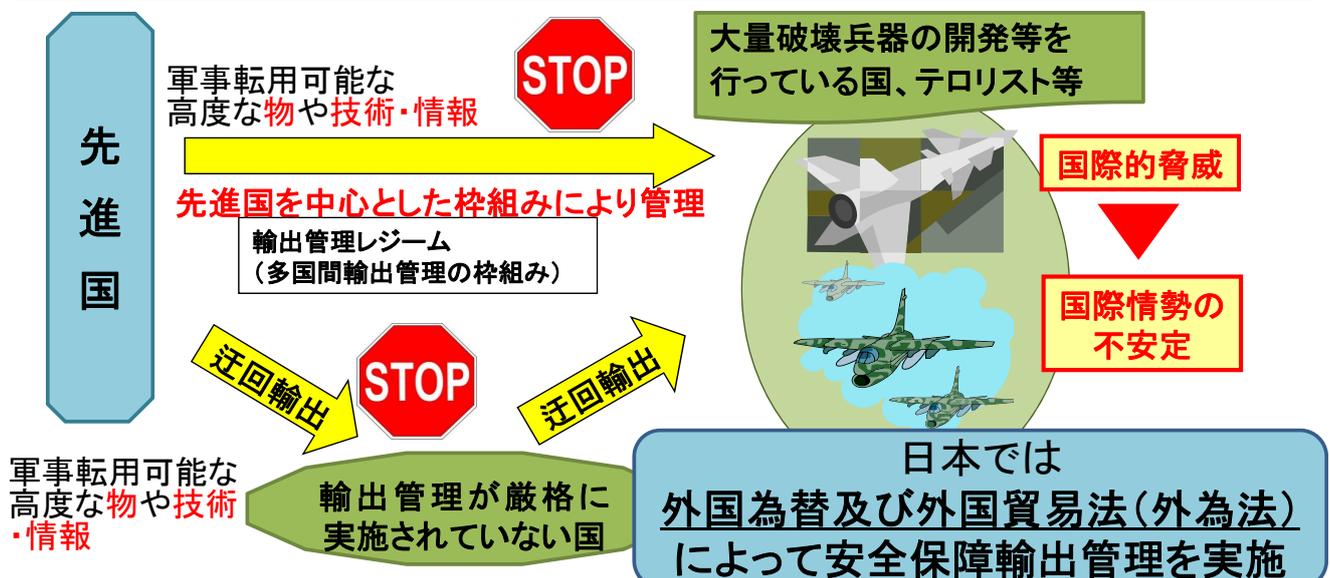
1. 日本の安全保障輸出管理規制
2. 東北大学の安全保障輸出管理体制
3. その他

1.日本の安全保障 輸出管理規制



安全保障輸出管理とは

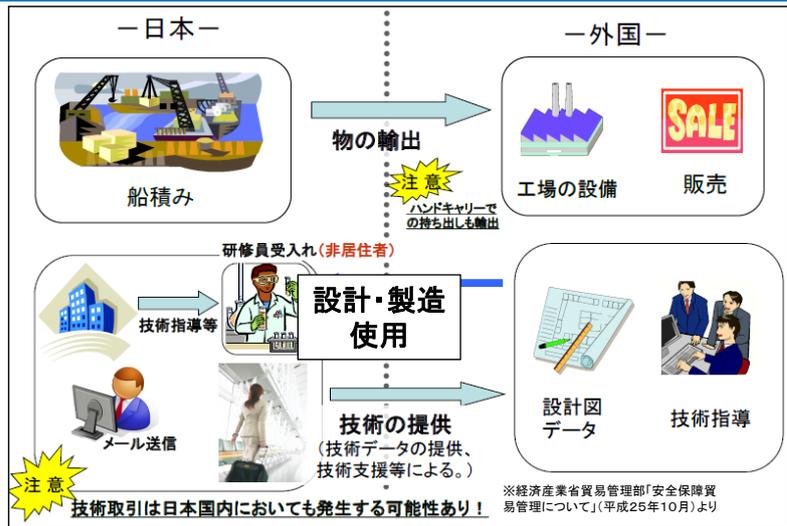
先進国がもっている高度な機械や技術が、大量破壊兵器の開発等を行っている国などに渡った場合、**国際的な脅威**となり、情勢の不安定化を招きます。その脅威を未然に防止するために、**先進国を中心とした枠組み**を作って貿易管理に取り組んでいます。



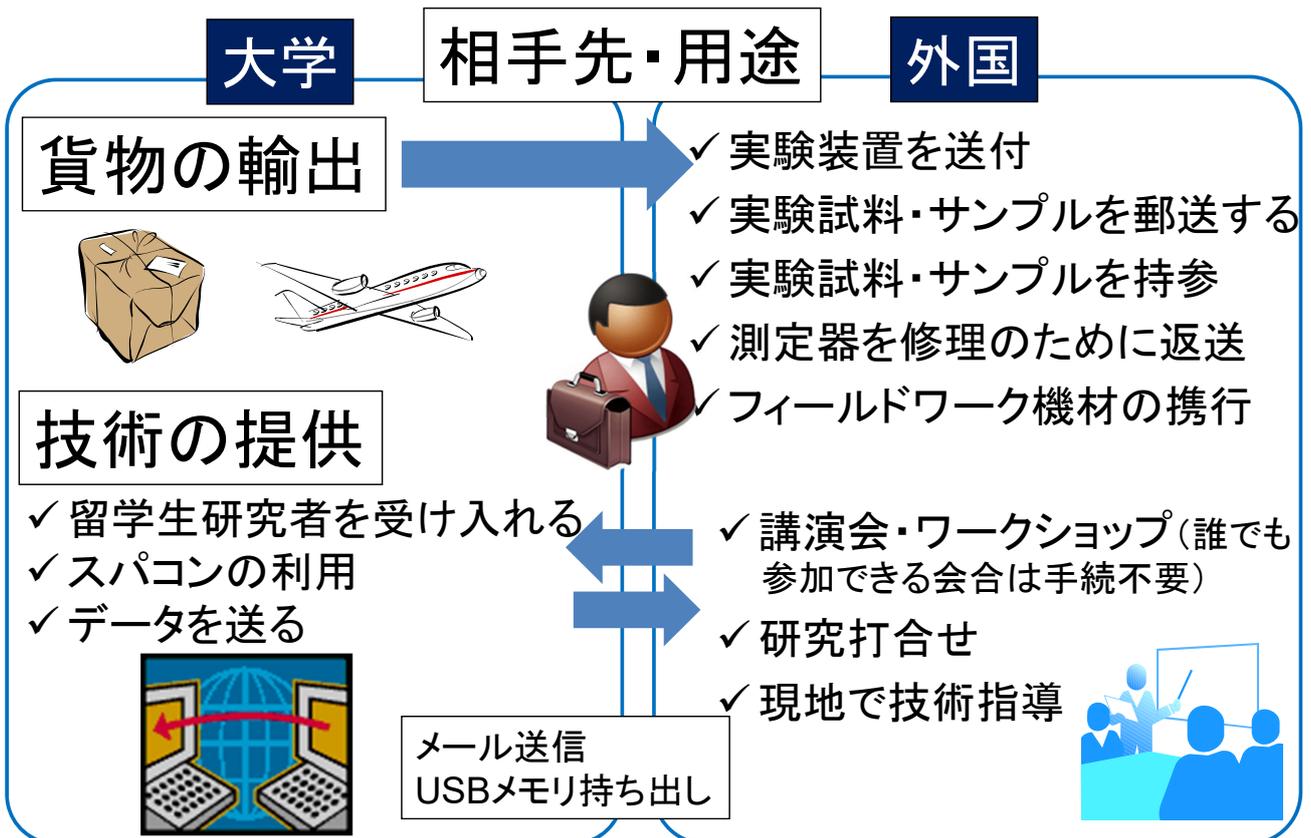
※経済産業省ホームページ掲載資料より

特定の**貨物を外国に輸出し**、又は
 特定の**技術を外国若しくは非居住者に提供する**に
 当たり、一定の要件に該当する場合には、
事前に経済産業大臣の許可を必要とする

企業や貿易会社、メーカーの製品開発に関する問題のように考えがちですが、大学においても様々な場面で輸出等が発生します



大学で輸出管理が必要となる例



▶ リスト規制【すべての国・地域対象】

輸出する貨物又は提供する技術が**リスト規制に該当する場合には、相手先を問わず、原則として経済産業大臣の事前の許可が必要**となる制度

貨物や技術で判断

▶ キャッチオール規制【グループA(ホワイト国)以外対象】

輸出する貨物又は提供する技術が**リスト規制に該当しない場合であっても、相手先や使われ方により、大量破壊兵器や通常兵器の開発等に用いられるおそれがある場合には、原則として経済産業大臣の事前の許可が必要**となる制度

相手先や使われ方で判断

9

リスト規制

- ▶ リスト規制は、貨物や技術の仕様(スペック)が、法令で規制されているものか否かを判断(該非判定)します
- ▶ 規制項番は、武器、原子力等分野別に1項から15項に分類されており、各項番によって規制される品目が示されています

項番	輸出規制品目例(赤字は本学で使用されており過去に判定を行った貨物)
1	武器 軍用航空機、軍用人工衛星、軍用細菌製剤・化学製剤等
2	原子力 重水素・重水素化合物、ロボット等、アルミニウム合金、真空ポンプ等
3	化学兵器 軍用化学製剤の原料、化学製剤用製造機械装置等
3の2	生物兵器 軍用細菌製剤の原料、細菌製剤用製造装置等
4	ミサイル 無人航空機、ロケット誘導装置、推進薬原料、サーボ弁、ガスタービン等
5	先端材料 チタン・ニッケルなど合金粉、金属製磁性材料、セラミック複合材料等
6	材料加工 ロボット、軸受、数値制御工作機械、コーティング装置等
7	エレクトロニクス サンプリングオシロスコープ、ネットワークアナライザー、半導体基板、集積回路等
8	電子計算機 電子計算機
9	通信 伝送通信装置、通信用光ファイバー、暗号装置等
10	センサー等 光検出器・冷却器、高速度撮影可能なカメラ、レーザー発振器、レーダー等
11	航法装置 衛星航法システム 電波受信機、ジャイロスコープ
12	海洋関連 水中ロボット、潜水艇、水中回収装置、浮力材
13	推進装置 人工衛星・宇宙開発用飛しょう体、無人航空機、ガスタービンエンジン等
14	その他 粉末状の金属燃料、催涙剤・くしゃみ剤等
15	機微品目 宇宙用光検出器、潜水艇、デジタル伝送通信装置等

スペックの詳細はHPで確認可能

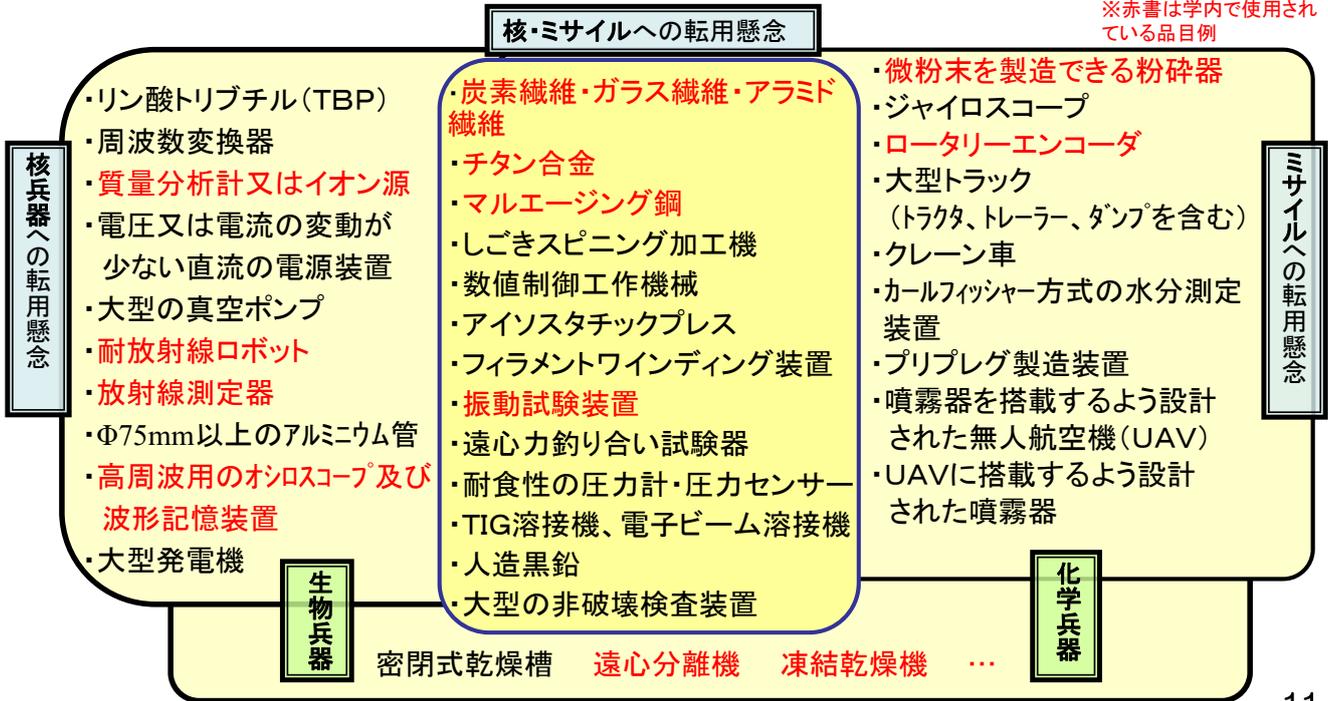
10

キャッチオール規制

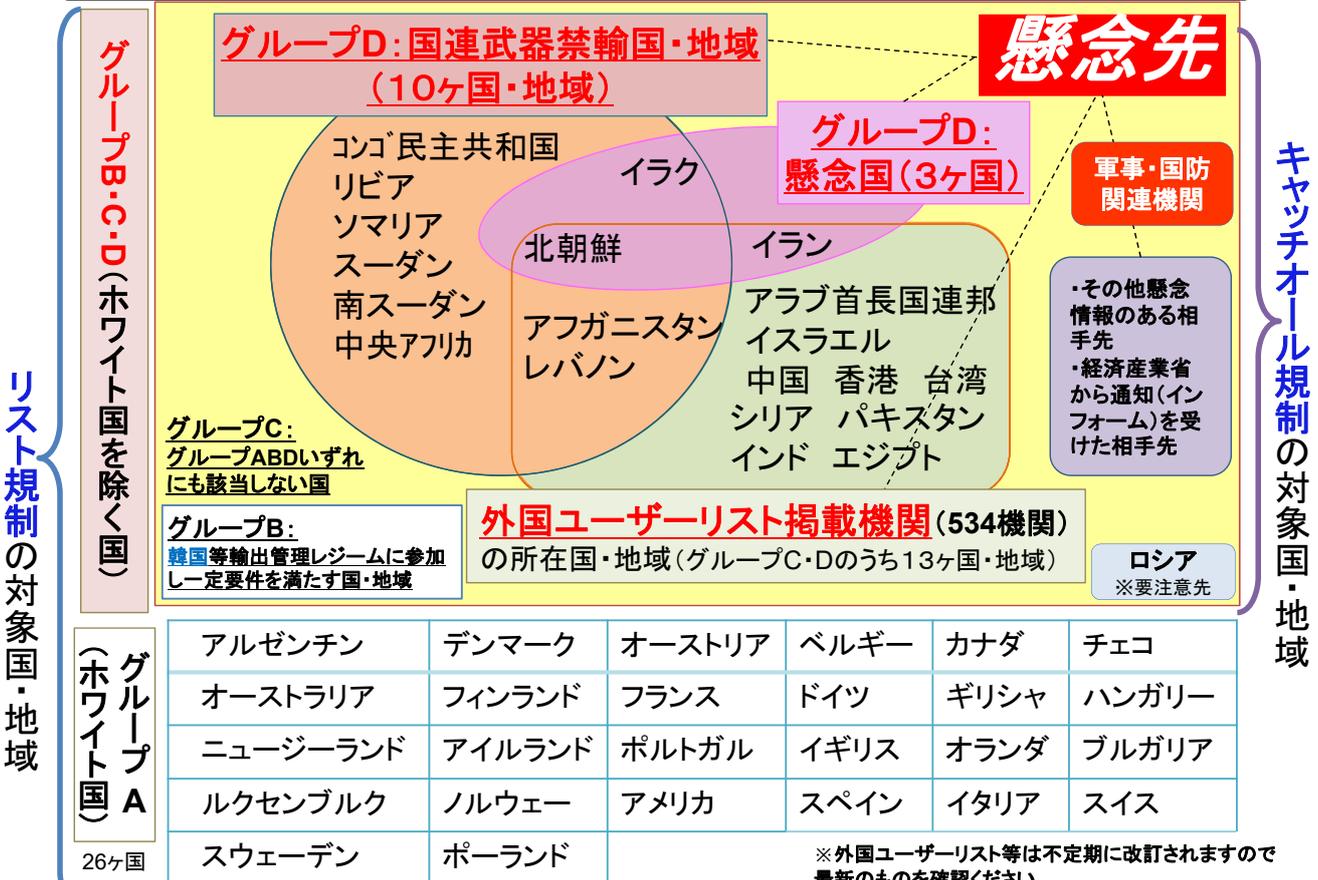
➤ キャッチオール規制は、食料品や木材を除く全てを対象とし、貨物や技術が兵器の開発等に転用される恐れがないかを判断します

➤ 特に兵器の開発等に用いられる恐れの強いものを**懸念40品目**として指定

※赤書は学内で使用されている品目例



相手先の種別



※外国ユーザーリスト等は不定期に改訂されますので最新のものを確認ください

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/export/>

外国ユーザーリスト(2019.4.26改訂)

経済産業省が、大量破壊兵器の開発等への関与が懸念される企業・組織を掲載し公表しているリスト

このリストに掲載されている企業等に輸出等を行う場合には、それが大量破壊兵器の開発等に用いられないことが **明らかな場合を除き**、経済産業大臣の許可が必要となります

東北大学と大学間・部局間協定を締結している大学も一部掲載されています

慎重な審査が必要になりますが、外国ユーザーリスト掲載機関出身者という理由だけで受入不可の判断を行わないよう注意！

※外国ユーザーリストは不定期に改訂されますので最新のものをご確認ください
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/export/>

No.	国名、地域名 Country or Region	企業名、組織名 Company or Organization	別名 Also Known As	懸念区分 Type of WMD
1	アフガニスタン Islamic Republic of Afghanistan	Al Qa'ida/Islamic Army	<ul style="list-style-type: none"> Al Qaeda Islamic Salvation Foundation The Base The Group for the Preservation of the Holy Sites The Islamic Army for the Liberation of Holy Places ... 	化学 C
208	イラン Islamic Republic of Iran	Shiraz University		ミサイル、核 M,N
226	イラン Islamic Republic of Iran	University of Tehran	Tehran University	生物、化学、ミサイル、核 B,C,M,N
419	中国 People's Republic of China	Beijing University of Aeronautics and Astronautics (BUAA) (北京航空航天大学)	Beihang University	ミサイル M
440	中国 People's Republic of China	Harbin Institute of Technology (HIT) (哈爾濱工業大学)		ミサイル M
466	中国 People's Republic of China	University of Electronic Science and Technology of China (UESTC) (电子科技大学)		化学、ミサイル C, M
534	レバノン Republic of Lebanon	TOP TECHNOLOGIES SARL		生物、化学 ミサイル B,C,M

許可の取得が免除される特例等1/4

規制がある一方で

技術の提供・受入れ

- **公知**(教科書に基づく講義、国際学会での発表等)
- **基礎科学分野の研究活動**(注意:後述)
- **居住者**(日本に6か月以上滞在、日本国内の提供に限る)

貨物の輸出

- **少額特例**
- **部分品特例**(半田付けされた電子部品等)
- **無償特例**(海外出張時のPC・携帯電話の携行)

この他にも外為法において、許可の取得が免除される特例等がありますが、いずれも適用は申請された「**輸出管理シート**」により判断されます



許可の取得が免除される特例等2/4

公知の技術とは・・・

◆外為法上の「公知」とは

誰でも制限なく取得できること又はできるようにすること

- ✓ 不特定多数の者に対して公開されている技術
- ✓ 不特定多数の者が入手可能な技術
- ✓ 不特定多数の者が聴講可能な技術
- ✓ ソースコードが公開されているプログラム
- ✓ 不特定多数の者が入手・閲覧可能とすることを目的とする場合

不特定多数の者が知れない場合は適用ができない！

- × 相手先に守秘義務を課して技術を提供する場合
- × 特定少数の者にだけ技術を開示する場合

15



許可の取得が免除される特例等3/4

基礎科学分野の研究活動とは

◆ 自然科学の分野における現象に関する原理の究明を主目的とした研究活動

◆ 製品の設計または製造を目的としない

経産省が示す自然科学分野例・・・純粋数学、天文学といった特定の分野に限定

プレスリリースやHPの研究紹介において、文末等に〇〇の実現が期待できる・・・というような表現をしている場合

一般的には、**基礎科学**(そのもの)だと思われ、特定の製品への応用を直接の目的としない場合であっても**結果として製品応用につながる可能性のあるものは、経済産業省から適用を認められない傾向がある**

製品への応用の可能性があると判断され、基礎科学の適用は難しい

※プレスリリース等の表現に制約を与えるものではありません

適用の可否は慎重に判断されます

16

居住者及び非居住者の区分

居住者	非居住者
<p>日本人の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①我が国に居住する者 ②日本の在外公館に勤務する者 	<p>日本人の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外国にある事務所に勤務する目的で出国し外国に滞在する者 ②2年以上外国に滞在する目的で出国し外国に滞在する者 ③出国後外国に2年以上滞在している者 ④上記①～③に掲げる者で、一時帰国し、その滞在期間が6月未満の者
<p>外国人の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①我が国にある事務所に勤務する者 ②我が国に入国後6月以上経過している者 	<p>外国人の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外国に居住する者 ②外国政府又は国際機関の公務を帯びる者 ③外交官又は領事官及びこれらの随員又は使用人（ただし、外国において任命又は雇用された者に限る。）
<p>法人等の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①我が国にある日本法人等 ②外国の法人等の我が国にある支店、出張所その他の事務所 ③日本の在外公館 	<p>法人等の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外国にある外国法人等 ②日本法人等の外国にある支店、出張所その他の事務所 ③我が国にある外国政府の公館及び国際機関
<p><small>※財務省通達「外国為替法令の解釈及び運用について(抄)」より</small></p>	<p>その他、合衆国軍隊等及び国際連合の軍隊等</p>

原則、学内手続(輸出管理)は**居住性**に関わらず実施

外為法違反に対する罰則

規制対象となる貨物・技術を、許可を取らずに輸出・提供してしまうと、法律に基づき、罰せられる場合があります(罰則の対象:教員個人、法人)

刑事罰

個人:最大 3000万円の**罰金**
 法人:最大10億円の**罰金**

行政罰(行政制裁)

・3年以内の、物の輸出・技術の提供の**禁止**

その他

・経済産業省からの**警告**
 ・**事情聴取・立入調査**
 (その他、過去5年間の外為法違反案件を全学的に調査するよう求められます。)

・**経済的損失**
 ・**研究指導の中止**
 ・**MTA契約等の撤回**
 ・**社会的評価にダメージ**
 ・**大学のイメージの悪化**
 ・**信用の失墜** など

2. 本学の安全保障 輸出管理体制

19



安全保障輸出管理体制構築のあゆみ

2005年 4月 大学等における輸出管理の強化について(経産省通知)

⋮

2009年 7月 イラン人留学生受入れに関する外為法違反への疑いに関し新聞報道“核疑惑機関から留学生?! 東北大イラン人に処理法指導”
※外為法令違反はなし・・・組織体制・規程・手続きの不備について指摘

2009年 8月 「安全保障輸出管理体制」検討タスク・フォース(TF)委員会設置
⇒ 管理体制及び規程の検討開始

2009年 9月 暫定の相談窓口(産学連携課内)の設置

2009年11月 産学連携課内に「安全保障輸出管理室」(室長1, 室員2)を設置

2010年 1月 管理体制及び安全保障輸出管理規程の承認(役員会)

2010年 1月 安全保障輸出管理細則の制定

2010年 3月 安全保障輸出管理体制スタート(規程・細則の施行)

2010年 4月 輸出者等遵守基準施行(経産省)

20

◆輸出管理は法令上の義務

大学等においても輸出管理体制の整備・構築が義務付け (2010年4月輸出者等遵守基準施行)

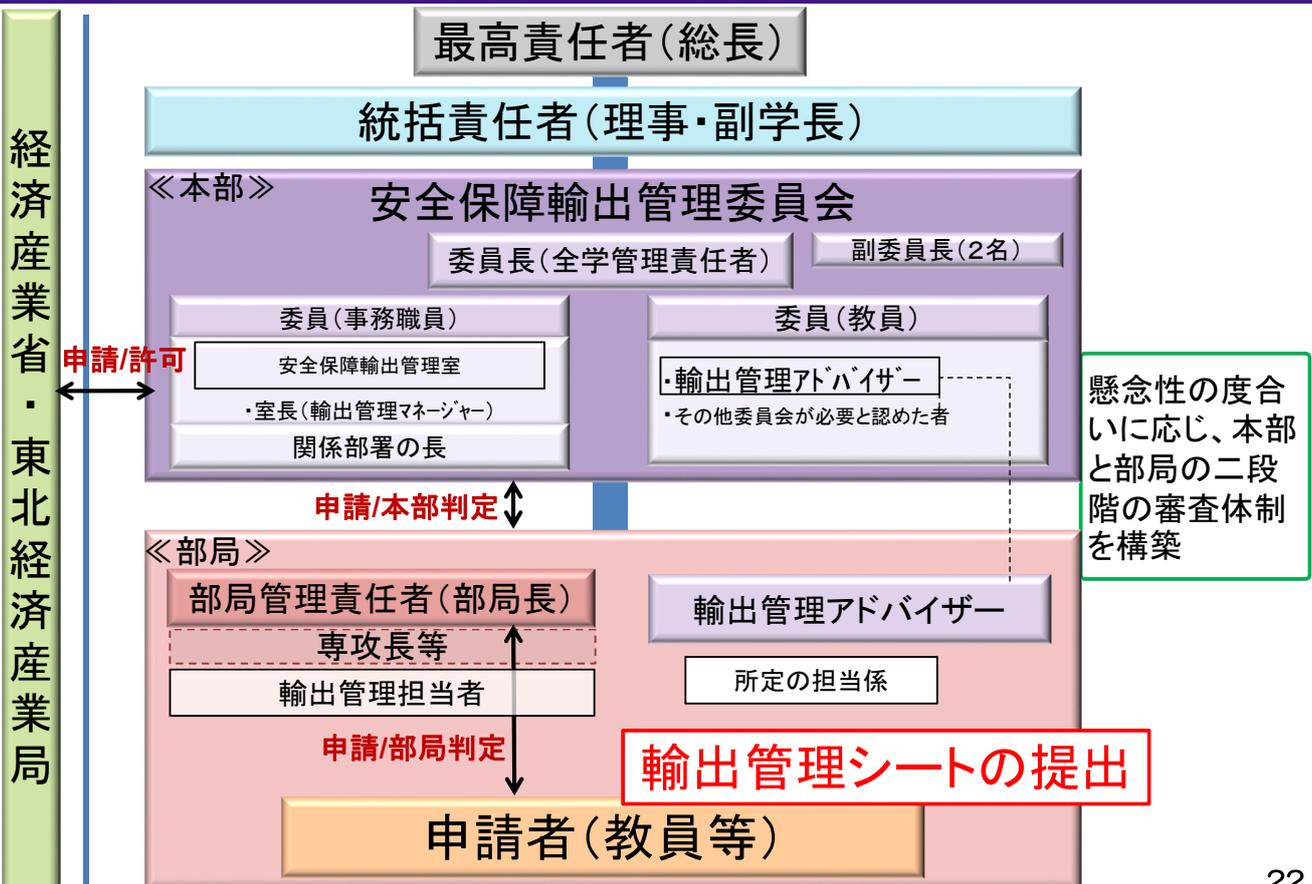
本学では2010年1月に規程を制定、2010年3月に管理体制発足

- 本学の輸出管理**目的**(輸出管理規程第1条)
学術研究の健全な発展等に寄与する
- 本学の輸出管理**基本方針**(同第4条)
法令を遵守し、国際的な平和及び安全の維持を妨げる**おそれのある取引は行わない**

先生方が安心してグローバルな研究活動を行えるよう支援するための輸出管理体制を構築

21

東北大学の輸出管理体制



22

東北大学の輸出管理体制・審査

懸念性・リスク	一次審査	二次審査	最終審査
高 High-risk: 転用可能性が相対的に高い重大なケース 懸念先からの受入れ等	部局管理責任者(部局長)	安全保障輸出管理室(事前審査を実施)	安全保障輸出管理委員会, 統括責任者(理事・副学長)
中 Middle-risk: 該非判定等に慎重な判断を要するケース 貨物の輸出等	部局管理責任者(部局長)	安全保障輸出管理室	
低 Low-risk: 明らかに許可不要な軽微なケース 受入(懸念先除)	部局管理責任者(部局長)		

Important process

濃淡管理

二次: 事前審査

最終: 安全保障輸出管理委員会

最終確認



標準的処理日数

学内手続

- ✓ 懸念先からの受入・技術提供・輸出 … 1ヶ月半
- ✓ 懸念先以外への貨物の輸出 … 1~2週間
- ✓ 懸念先以外からの受入・技術提供 … 1~2週間
- ✓ スーパーコンピュータの利用(許可申請の有無確認) … 1週間

※上記は安全保障輸出管理室での処理日数(別途部局内処理日数が加算)

※学内手続の結果, 経済産業省への申請が必要と判定された場合は, 以下の経済産業省への申請手続に係る処理期間が加算

経済産業省への申請手続

… 3週間~3ヶ月

※許可に要する日数は案件により異なります
※処理日数は、経済産業省への提出後の日数(学内処理日数含まず)

H30年度 総手続件数 1,436件
 役務提供 963件
 (事前審査・委員会審査案件 47件)
 貨物の輸出 473件
 (リスト規制該当案件 10件
 内 許可申請案件 2件)

いずれも経産省に許可申請後
輸出許可を得て輸出しています



東北大学における輸出管理(全体像)

入口管理

中間管理

出口管理

教員等の手続き

受入打診～受入時

- ・ 予定発生(受入、貨物の輸出等)
- ・ 研究指導(技術提供)の確定
- **チェックフロー図**の確認、**輸出管理シート**の作成・提出

【受入時】誓約書の取得

研究実施時

- ・ 研究の進展・進捗による研究指導(技術提供)の追加・変更
- ・ **受入期間、身分の変更**
- **輸出管理シート**の再提出

終了前～帰国時

- ・ 進路先等及び技術の再提供の確認
- ・ 貨物の持ち帰り
- **チェックフロー図**の確認、**終了前確認シート**の作成・提出

居住性に関わらず学内管理は継続的に実施

輸出管理担当者

- ◎判定手続
- リスト規制、例外規定等の確認

- ◎再判定手続
- 変更内容の再確認
- 受入記録の修正等

- ◎終了前確認手続
- 持ち帰る試料、データ等の内容確認

※各段階での具体的な管理については次頁以降で説明



入口管理／教員のファーストチェック

東北大学のトップページ「国際交流」or「研究・産学連携」のページから

安全保障輸出管理のHPにアクセス
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/export/>



東北大学における安全保障輸出管理

各種ツール

輸出管理シート※ | 終了前確認シート※ | 同一貨物の再輸出※ | 課査票※ | **学内手続のフロー**

【チェックフロー図の確認】

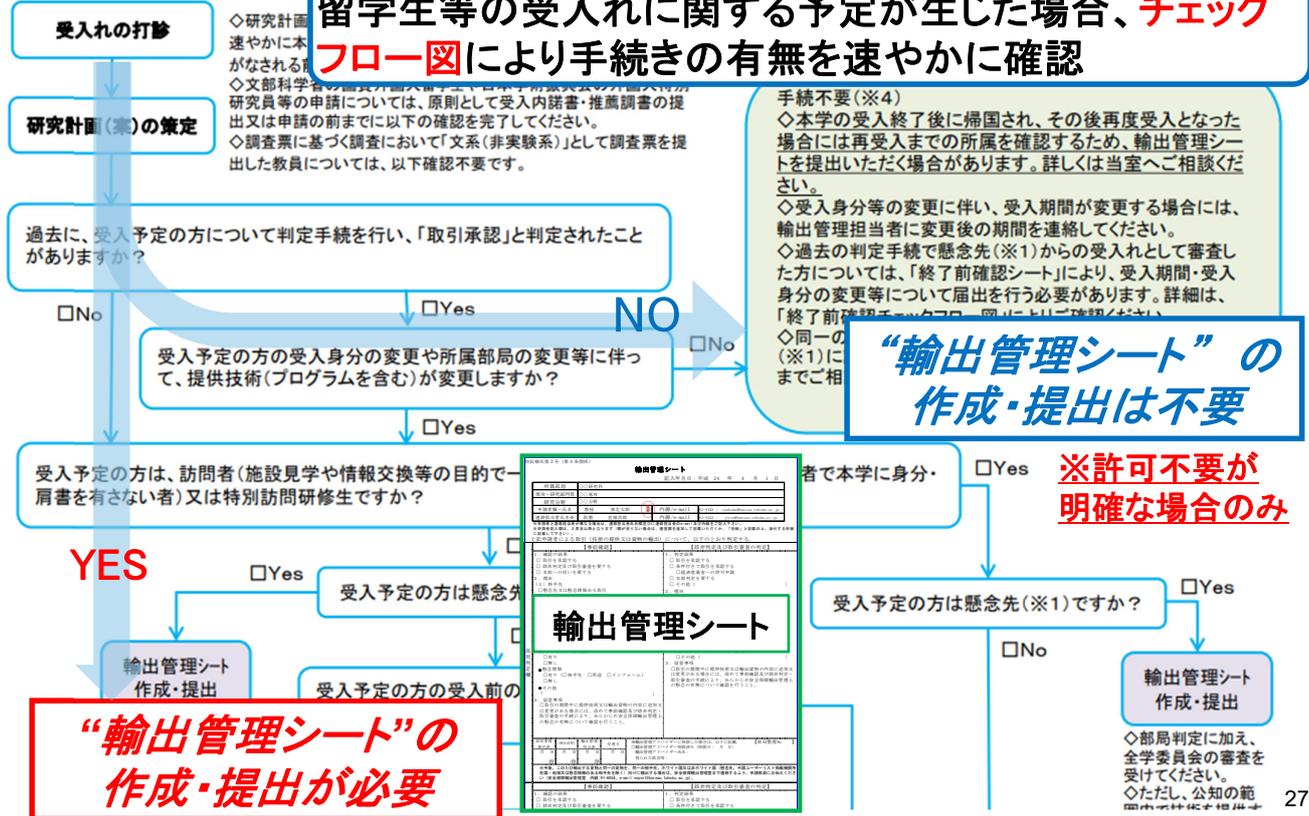
- ・ 留学生・外国人研究者受入, 受入終了前
- ・ 貨物輸出(EMS・郵送・携行等)
- ・ MTA契約、共同研究等の契約
- ・ 外国出張
- ・ 兼業
- ・ 国際学術交流協定締結・更新
- ・ スーパーコンピューターの利用
- ・ 技術データの提供

チェックフロー図や輸出管理シートのほか、各種通知や誓約書等もこちらのページからダウンロードできます

ここからStart

留学生・外国人研究者受入れチェックフロー図

留学生等の受入れに関する予定が生じた場合、**チェックフロー図**により手続きの有無を速やかに確認



輸出管理シートに記入する内容

・受入

- ✓ 提供技術の内容
- ✓ 受入期間
- ✓ 相手先の情報(CV)
- ✓ 目的・用途 等

※直近以外にも過去の経歴に懸念先への所属がないか注意が必要です

・貨物

- ✓ 貨物の形状、組成等
- ✓ 提供先の状況
- ✓ 目的・用途
- ✓ 輸出予定日 等

※輸出予定日については、余裕をもって輸出管理シートを提出ください

※記入例は資料3, 4を参照

担当事務に提出

部局または安全保障輸出管理委員会

リスト規制及びキャッチオール規制に該当していないか、例外規定等の適用が可能か否か 等について確認、審査

⇒承認後、**受入や貨物の輸出が可能**

※輸出管理シートの作成は、来年1月からシステム化の予定です



入口管理／輸出管理シート(該非判定2/3)

便利なツール

輸出入管理のホームページです。

安全保障輸出管理室HP

MENU (学内専用)

「便利なツール」→「該非判定一覧」



東北大学における安全保障

- MENU
- HOME
- ご挨拶
- 組織体制
- 規程
- スーパーコンピュータ
- 活動報告書
- 関連リンク
- MENU (学内専用)
- 学内手順のフロー
- 各種様式
- 規程・細則
- 通知・事務連絡等
- 調査

マニュアル等【学内専用】

- ▼ 貨物・技術一体化マトリックス表 (経済産業省)
- ▼ **未定・未定貨物一覧表**
- ▼ **該非判定一覧**

過去に実施した該非判定案件を貨物又は技術の種別等により、分類してエクセルファイルにて掲載
該非確認を行う際の確認対象項番の選定等に活用ください

項目	申請者所属部局	輸出貨物の名称	該当輸出令	第1条第3号	該当
原子力	原子分子材料科学高等研究機構	リテウム-アルミニウム-四重水素化合物	2項(3)	第1条第3号	該当： ・輸出令別表第1の2項(3)及び貨物等省令第1条第3号に規制された重水素は、自然界に存在する重水素のみを除外しており、濃縮した重水素又は重水素化合物はすべて上記規制の対象であるため、同項に該当する。
	生命科学研究所	重水素標識ガンビエロール4環性類縁体	2項(3)	第1条第3号	該当： ・輸出する重水素標識ガンビエロール4環性類縁体は、重水素化合物であって、重水素の原子数の水素の原子数に対する比率が5,000分の1を超えるため、輸出令別表第1の2項(3)及び貨物等省令第1条第3号に該当する。
	金属材料研究所	Zr基金属ガラス合金	2項(26)	第1条第31号	該当： ・Zr55Cu30Ni15Al10金属ガラス合金棒 4mm角 長さ25mm, Zr85Cu20Nb5Pd3Al7金属ガラス合金棒 直径2mm 長さ45mm, Zr85Cu20Nb5Pd3Al7金属ガラス薄片 幅10mm 長さ30厚さ0.05mm。 ・ジルコニウムの含有量が全重量の50%を超えており、輸出令別表第1の2項(26)及び貨物等省令第1条第31号に定める仕様に該当する。
	原子分子材料科学高等研究機構	Ti45Ni35Zr17	2項(26)	第1条第31号	該当： ・ジルコニウムの含有量が全体の50%を超えるため、輸出令別表第1の2項(26)及び貨物等省令第1条第31号に該当する。



入口管理／輸出管理シート(該非判定3/3)

該非判定書 (市販品)

市販品の場合
輸出管理シートに製造会社等の判定書を添付することで、**手続に要する時間を短縮することが可能**

入手方法

- ✓ メーカーや販売元等に確認、発行依頼
- ✓ HP上から請求可能な場合や、判定書をHPに掲載している会社も

お客様各位
NECパーソナルコンピューター(株)HPより
輸出貿易管理令別表第1及び外国為替令別表に関する判定

下記の製品について輸出貿易管理令別表第1及び外国為替令別表に関し検討した結果、下記のとおり判定いたしました。
(2017年1月7日施行の政令改正に対応)

商品名	判定	注
パーソナルコンピューター (デスクトップ型およびノート型)	輸出令別1-8項 非該当 輸出令別1-9項(7) 非該当 外為令別8項(2) 非該当 外為令別9項(1) 非該当	○

※モニタセットモデル、モニター一体型デスクトップ、ディスプレイ分離型ノートを含む

KEYSIGHT TECHNOLOGIES
非該当品リスト (オシロスコープ除く)
輸出貿易管理令別表第1の1項から第15項における判定 (2017年1月7日施行の政令改正対応)

本リストの判定は、施行日現在、弊社カタログ又はホームページに掲載のあるオプションを含みます。
品名はカタログや資料により異なることがありますので、製品詳細書の別冊であるアプリケーション・テクノロジー社、モジュール社
キーサイトテクノロジーHPより

- ＜使用上のご注意＞
- 当社製品を日本から輸出される場合は技術提供される場合は、日本の輸出規制以外に米国の再輸出規制が適用されます。
 - 米国の政府の定める輸出規制への貨物の輸出、技術の提供は禁止されています。
 - 米国の政府の定める取引禁止国等(DFIL)への輸出、販売、譲渡等は禁止されています。
 - 日本法が定める「外国ユーザリスト」対象者への輸出、販売、譲渡等は禁止されています。
 - キャッチオール規制に基づき、最終需要者・用途が大量破壊兵器等の開発・製造・使用に際する場合、又は、開号が疑われる場合は輸出が禁止されています。

下記リストの製品は、輸出令別表第2は対象外です。

製品番号	製品名	判定	対象国	非該当理由	米国の再輸出規制 (EAR) : ECCN
10020A	700 MHz Resistive Divider Probe Kit	対象外	---	「ECCN」が「0」の分割抵抗器 輸出令別表第1の1項から15項までの何れにも当てはまりません。	3A992.A
10070A	X1 PASSIVE PROBE	対象外	---	「ECCN」が「0」のプローブ 輸出令別表第1の1項から15項までの何れにも当てはまりません。	EAR99
10070B	1:1, 1 MOhm, 1.5m, Passive Probe	対象外	---	「ECCN」が「0」のプローブ 輸出令別表第1の1項から15項までの何れにも当てはまりません。	EAR99
10070C	Passive probe, 1:1, 20 MHz	対象外	---	「ECCN」が「0」のプローブ 輸出令別表第1の1項から15項までの何れにも当てはまりません。	EAR99
10070D	Passive probe, 20 MHz, 1:1	対象外	---	「ECCN」が「0」のプローブ 輸出令別表第1の1項から15項までの何れにも当てはまりません。	EAR99

➤ 取得対象者

留学生、外国人研究者

(正規・非正規問わず ただし文系(非実験系)は除く)

➤ 誓約内容

指導(受入)教員との相談のうえ、必要に応じて
技術の国外持ち出し、貨物の輸出について
外為法等に従い所定の手続を行うことを誓約



- ✓ 研究上の技術情報を在学(在職)中又は修了(退職)後に外国において提供し、若しくは非居住者に対して提供しようとする場合

研究で知り得た技術の国外持ち出し

- ✓ 研究上の使用機器若しくは使用材料若しくは研究の結果得られた有体物を、在学(在職)中又は修了(退職)後に外国に輸出しようとする場合

研究の結果得られた貨物の輸出

33

◆ 受入れ時に承認された場合でも

修士課程＞博士課程＞PDなどで**研究テーマ・提供技術が変わる場合**は再確認・再判定を実施

- 提供技術の内容に**追加・変更が生じた場合**
- 受入れた留学生・外国人研究者の所属大学・研究機関又は学位取得大学が**新たに外国ユーザーリストに掲載された場合**、国籍のある国が**新たに懸念国や国連武器禁輸国に指定された場合**

再確認・再判定手続

34

◆ 終了前確認シートによる出口管理

- ▶ 受入教員は、原則終了予定日の1ヶ月前までに、チェックフロー図により在籍期間中の取引状況及び帰国等に伴う取引予定を確認
- ▶ 終了前確認シートの提出が必要になった場合は、留学生等の進路先や就職先、貨物及び技術の持ち出し等についてシートを作成・提出
- ▶ 懸念先に進学・就職する場合で、提供技術に追加・変更があったことが終了時点で明らかとなったときは、事後的に再判定を実施し、受入に関する提供内容を確認（原則、技術の追加変更については、変更前に手続きを！）

シートやチェックフロー図はHPから確認

※持ち出そうとする技術情報（資料、データ）や貨物（試料、機器）がリスト規制に該当する場合、持ち出し前に経産省への許可申請及び許可が必要になります

35

3. その他

➤事例その1(受入)

➤**手続の漏れ**

事後対応

・輸出管理手続を実施しないまま本学の大学院を修了したC国の元留学生が、**軍事機関出身者**であり、**帰国後、同機関に戻り、軍事開発に**関与している可能性がある旨、**経済産業省等**から情報提供があった。

- ✓ 受入期間中の指導内容について、経産省から説明要請があり、提供技術の確認のほか、研究室における機器の保有状況について報告を求められた
- ✓ 今後の交流についても注意喚起を受けた

外国ユーザーリスト掲載機関だけではなく、所属機関名(過去経歴含)に「軍(Military)」、「国防(Defense)」等の名称を冠する場合 **慎重な審査が必要**になります

37

➤事例その2(貨物)

➤**輸出遅延**

・客員研究員として受入れた外国人研究者から、自らが合成した化合物等を母国に持ち帰りたい旨、本人の帰国直前に指導教員が相談を受けた。

化合物はいずれも少量であったため、**輸出管理シートを提出せずに持ち帰らせようとした**が、事務担当者からの助言もあり、輸出管理シートを提出、該非判定を行ったところ、**リスト規制該当品が含まれていた**。

- ✓ リスト規制該当品のため、経済産業大臣の許可を受ける必要があり、帰国時に持ち帰ることはできず、後日許可後に指導教員が郵送することとなった。

少量・少額の貨物であっても学内手続きは必要です。

持ち帰り貨物がリスト規制に該当する場合は、手続に時間を要しますので、早めに確認を行ってください。

外国人研究者自身が日本に持ち込んだ機器についても、帰国の際は、輸出管理シートにより該非を確認してください。

38

✓ JSPS外国人研究者招へい事業等

JSPS諸事業では、**研究者が現在の身分を保持して来日**することも多く、懸念先出身者については、提供技術はもとより、所属先での研究内容やその関係性についても確認が必要

※過去の経歴に懸念先がある場合は学内審査が必要です！

✓ 科学研究費補助金

・「国際共同研究加速基金」等

公募要領に留意事項の一つとして「安全保障貿易管理について」の記載

科研費による課題を含む各種研究活動を行うに当たっては、軍事的に転用される恐れのある研究成果等が、懸念活動を行うおそれのあるものに渡らないよう、組織的対応が求められています

いずれも内諾時や申請時の初期対応が重要です

39

✓ 中国国家建設高水平大学公派研究生
(中国国家留学基金管理委員会(CSC))

- ◆ 募集時期は3月～4月(5月採択)
- ◆ 教員宛に留学生から直接受入について打診
- ◆ 留学終了後に「**中国に資する事業に就業すること**」とされている事業もあり、終了前確認は特に注意が必要
- ◆ 正規生としての進学予定者だけではなく、中国国内の大学に籍を置いたまま、特別研究学生として入学するケースもあります

※このほかにも研究者を対象としたCSC事業や、CSCと中国の大学が出資して海外に研究者を派遣する事業が確認されており、様々な制度を利用して海外に留学する研究者が増加しています

内諾をする際には、相手先の経歴や過去の業績、来日の目的等を必ず確認してください



継続的な適正管理のためのツール1/2

- 安全保障輸出管理に関する講習の動画配信について
 - ✓ Eラーニングによる講習の配信(2017年11月より運用開始)
 - ✓ 本講習受講後も継続的な適正管理のツールとして是非活用ください

動画は**安全保障輸出管理HP**の「講習会・研修会」ページにて配信中！

～構成は2部構成～
第1部外為法による規制
第2部本学における輸出管理



継続的な適正管理のためのツール2/2

- 安全保障輸出管理に関する講習の動画配信について(経済産業省)

✓ 経済産業省HPからも大学・研究機関向けの動画が配信されています

- 目次
- ・安全保障貿易に係る機微技術管理ガイダンス
 - ・アドバイザー派遣事業のご案内(大学・研究機関)
 - ・**大学・研究機関の教職員向けeラーニング**
 - ・「大学・研究機関向け説明会」開催のご案内
 - ・過去の「大学・研究機関向け説明会」の資料
 - ・安全保障貿易管理に関するリーフレット
 - ・参考

✓ 英語による動画等のコンテンツも準備されていますので、本学の講習動画と合わせて活用ください

海外からの共同研究の打診…
試料提供の依頼・MTAの打診…
留学生・外国人研究者の受入れ・帰国…

予定が生じたら**輸出管理の確認手続**
を**事前に速やかに実施**していただ
くようお願いいたします！

お問い合わせ先：本部事務機構総務企画部
法務・コンプライアンス課 **安全保障輸出管理室**
TEL：217-5920 内線のみ：91-6058
FAX：217-6069
E-mail：export@grp.tohoku.ac.jp

おわりに

2019年4月より、安全保障輸出全学管理責任者兼安全保障輸出管理委員会委員長を仰せつかりました。東北大学全構成員の皆さまならびに総務企画部法務・コンプライアンス課安全保障輸出管理室職員の皆さまの献身的な努力に支えられ、新米委員長を務めてまいりました。深く感謝申し上げます。

この1年を振り返りますと、安全保障輸出管理をめぐる大きな話題がいくつかありました。最も大きなものは2019年夏に起こった日韓の貿易問題です。「ホワイト国」という言葉が注釈なしで報道に使われるまでになり、ニュースの中で話題になった他国との貿易問題は決して他人事ではなく、大学の問題にも直接関連していることをはっきりと自覚させられる出来事でした。しかしながらこれも、日韓のアカデミックな共同研究には影響がないことを講習会等で繰り返し丁寧に説明するなどして、安全保障輸出管理の重要性を再確認していただくためのいわば他山の石とすることができたのではないかと考えております。2020年に年が改まるころからは新型コロナウイルス感染症の問題が発生し、突然人や物の流れが止まりました。いつから動き出すのかまだ先が見えない状況ではありますが、また一つ安全保障輸出管理に極めて大きな影響を及ぼす要因が露見しました。今後も様々な要因により安全保障輸出管理が影響を受ける事態が発生することと思います。正確な情報をもとに、安全保障の本来の役割を明確にしながら、明確な指針を示してまいります。

東北大学に安全保障輸出管理体制が整備されて10年がたち、東北大学教職員の皆さまの自覚とご協力のもと、国内トップクラスの管理体制が構築・維持されています。加えて2020年1月からは、安全保障輸出管理に関する申請の煩雑さを廃したWeb申請システムを運用開始しました。これまでの詳細なアップデートによりほぼ完成版に近づいた安全保障輸出管理の手順に関するフローチャートと合わせ、申請に係る労力を減じ必要な情報の記載にのみ注力していただくことができるようになりました。引き続きご活用いただくとともに、改善提案等をぜひお寄せください。

東北大学が世界の東北大学であり続けるために、そして世界のリーダーとして研究者コミュニティを牽引し続けるために必要な国際連携の中で、安全保障というルールを逸脱しないために安全保障輸出管理の重要性はますます大きくなってまいります。東北大学全構成員のこれまでのご協力を深く感謝いたしますとともに、引き続きご協力を賜りますよう、深くお願い申し上げます。

安全保障輸出全学管理責任者兼安全保障輸出管理委員会委員長
国立大学法人東北大学電気通信研究所 副所長・教授 石山 和志